

科目名	日本文化論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	白石 義孝		関連する資格				
授業概要 「倭は 国のまほろば たたなづく 青垣 山隠れる 倭しうるはし」 現存するわが国最古の書物（歴史書）である古事記（ふることふみ）は、天武天皇の命により編纂され、8世紀初頭（飛鳥時代から奈良時代）のわが国における天皇中心の社会と世界観を形成するための思想的背景となった。 本授業では、現代でいうところの「美しい国 日本」および「クール ジャパン」の思想の原点ともいえる古事記を、難解な原典ではなく、2015年に完結するまでの32年間でコミックス全23巻にわたる大作「天上の虹」（持統天皇物語）の作者である、里中満智子氏のコミック版を読み解いて理解を深めていくこととする。 最後に本授業のまとめとして、古事記の全体のストーリーを把握した状態で、河合隼雄氏の「神話と日本人の心」を読み解くことにより、日本文化論への心理学的なアプローチについても学ぶこととする。							
到達目標 B1110 1．現存するわが国最古の書物（歴史書）である古事記を読み解くことにより、古代日本（飛鳥時代）の社会と世界観について理解を深める。 2．神話に登場する神々の物語を読み、伝統的な皇室祭祀の意味、および全国各地の神社に祀られている神々との関係を理解する。 3．クールジャパンとして世界に誇るわが国のコミック文化において、巨匠と位置づけられる作家の作品のうち、歴史を扱った大作に親しむ。 4．河合隼雄氏の著作を通して、心理学的な視点から日本神話を読み解いてみる。			成績評価方法 定期試験および期末レポート（40％）、小テスト、授業内レポート（10％）、宿題、授業外レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験（中間・期末）	○	○		○			40
小テスト、授業内レポート	○	○		○			10
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20
グループワーク		○	○		○		
演習		○	○		○		
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方（対面授業） 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
2) 古事記（上巻）この世の始まり・天の石屋戸（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
3) 八俣大蛇・大穴牟遲（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
4) 根之堅州国・大国主神・少名毘古那（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
5) 国譲り・天孫降臨・木花之佐久夜毘売と石長毘売（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
6) 山幸彦と海幸彦・豊玉毘売と玉依毘売（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
7) 古事記（中巻）神武東征・天皇誕生・欠史八代（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
8) 三輪山の大神主神・沙本毘売・本牟智和氣御子（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
9) 小碓命・出雲建・倭建命（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
10) 草薙剣・弟橘比売・倭建命の帰還（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
11) 息長帯比売・大雀命（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
12) 古事記（下巻）皇后石之日売・皇位継承・歴史への道（対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
13) 神話と日本人の心「アマテラス」（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
14) 神話と日本人の心「スサノヲ」（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：授業内で指示した課題を作成する（45分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
15) 神話と日本人の心「オオクニヌシ」（事前課題の解説：対面授業） 予習：テキストの指定したページを読み、事前課題に回答（45分）遠隔授業 復習：最終課題を作成する（180分）遠隔授業	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること グループワークの課題はGoogleClassroomに提示するので期限までにコメントの書き込みをすること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト ・マンガ古典文学『古事記』（上）・（下）（里中満智子、小学館文庫） ・河合隼雄『神話と日本人の心』（岩波現代文庫・学術） 参考書・参考資料等 その他講義中において適宜紹介する。	現代社会の教育、ボランティアと社会

課題に対するフィードバック

プレゼンテーションや提出課題について毎回質疑応答を行い、フォローアップを行うとともに、課題に対する理解を深める。

備考

- ・各地の神社仏閣を訪問する際に、その歴史的背景や祀られている神仏について調べてみましょう。
- ・皇室で行われている宮中祭祀の歴史的背景と目的について調べてみましょう。

文庫版の文字が小さく、吹き出しのセリフが読みづらい場合は、文字の大きいワイド版（全2巻）をすすめる。

- ・古事記 壹(マンガ古典文学シリーズ)、小学館、ISBN: 4093621918
- ・古事記 弐(マンガ古典文学シリーズ)、小学館、ISBN: 4093621926

科目名	健康科学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	4年	前期			
担当者名	上田 真寿美、田坂 克子		関連する資格	高等学校教諭(福祉)一種免許状			
授業概要 本授業は対面授業とする。 本講義では、健康の定義を明らかにし、生涯を通して健康なライフスタイルを確立するための方法を考えさせる。本講義では、食および運動と生活習慣病との関連を中心に取り上げる。食と健康の関係を、栄養学および食品学の観点から考察して食生活の重要性を理解させる。また、健康の維持・増進における運動の重要性を運動生理学の観点から概説し、運動と栄養との係わりおよび有効な運動の実践方法を理解させる。 (上田 真寿美/8回) 現代生活における健康と運動の重要性について概説し、各ライフステージにおける健康維持のための運動やスポーツに触れる。 (田坂 克子/7回) 健康づくりと食生活について概説し、生活習慣病予防に重要な食生活改善の取り組みや食の安全性について触れる。							
到達目標 ナンバリング(A4101) 具体的に以下の観点から到達目標を設定している。 【知識・理解の観点】 1. 現代社会における健康問題について説明できる。 2. 現代生活における健康と栄養・運動の意味について説明できる。 3. 生活習慣病の予防や医療費の増大への栄養・運動の寄与について説明できる。 4. 栄養・運動と心身の関連について説明できる。 5. 健康な生活を送るための具体的な栄養・運動の実践方法について説明できる。 【思考・判断の観点】 1. 授業で取り上げた各領域について、自分の意見を論理的に述べるができる。 【関心・意欲・態度の観点】 1. 健康、栄養・運動への関心を広げ、問題意識を高めて、自らその解決方法を探ろうとすることができる。 2. 日常生活の中で健康問題や栄養・運動について主体的に考えることができる。 【技能・表現の観点】 1. 現在および将来にわたり、健康保持増進のための方策を立て実践することができる。			成績評価方法 授業態度、出席日数およびレポートにより総合的に評価する。 具体的には 1. 授業内レポートを数回行う。 2. 関心のある健康問題や運動に関するレポートを宿題をして課す。 3. 最終試験を実施する。 以上から評価し、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、我々を取り巻く健康問題（担当：上田真寿美） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
2) 現代生活における健康と運動 - これからの健康づくりと運動（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
3) 現代生活における健康と運動 - 疾病予防のための運動とは（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
4) 現代生活における健康と運動 - 運動不足と健康障害（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	グループワーク
5) 運動と身体健康 - ヒトの発育・発達 ヒトにおける形態や機能の変化（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
6) 運動と身体健康 - 乳児～青少年の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
7) 運動と身体健康 - 成人～高齢者の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
8) 運動と身体健康 - 女性の健康と運動・スポーツ（担当：上田真寿美） 中間総括（特に運動と健康領域） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	小テスト
9) 健康づくりと食生活（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
10) 食生活の変遷と栄養の問題点（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
11) 生活習慣病の予防（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	グループワーク
12) 食生活改善への施策(1)（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
13) 食生活改善への施策(2)（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
14) 食の安全性と表示（担当：田坂克子） 【予習】次回時に使用する配布資料について読んでおく（30分） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	小テスト
15) 総括（担当：田坂克子） 【復習】本時で学習した内容について資料の書き込みを見ながらまとめる（60分）	
授業外学習	
当該授業の前週に、次週の授業の資料配布と参考文献を提示する。それについて予習を行い授業に参加すること。授業内容について毎回まとめておく。それらを参考に課題レポート（授業内・宿題）を作成し提出する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用せず、適宜、書き込み式資料を毎回配布する。	

課題に対するフィードバック

提出された課題レポートについては翌週コメントを付けて返す。

備考

科目名	自然災害			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

授業は対面で実施します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては遠隔授業（ズームを使った双方向型授業）に切り替える場合もあります。なお、どちらの形態の授業でも、Classroomを使って資料の配布、及び出席確認のため、各回の課題提出を求めます。必ず、提出してください。

集中豪雨、地震、津波など、大災害が毎年のように襲ってくる時代、自然の変動が我々の生活に直接に影響を与えている。こんな時代には、自然現象を科学的に見る能力が必要。

この授業では「流れ」をキーワードとして、自然現象、特に海と大気に関することを学ぶ。また、エルニーニョ、北極振動、PM2.5などの具体的な現象について理解を深めます。さらに、東日本大震災、御嶽山噴火被害、広島土砂災害、熊本地震、最近の自然災害についても詳しく解説。

グループ討議も設定しています。この討議では自分の意見を主張して積極的に参加する。

到達目標

ナンバリング(A3102)

自然現象・自然災害を科学的にみる。

災害時には、避難行動を的確に行う。

成績評価方法

毎回の授業課題について提出した内容（出席確認も含める）、及び定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート	○	○					30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 水の性質（密度、比熱、気化熱など） 予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；水の基本的な性質を確認する（30分）。復習；	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
2) 海の流れと観測（海流、潮汐、黒潮など） 予習；海洋の流れについて概観する（30分）。復習；流れの特徴について整理する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
3) 風 予習；風の起こり方について概観する（30分）。復習；特に、偏西風について確認する（30分）。復習；	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
4) 雲・雨・雪 予習；該当分を概観する（30分）。復習；雲の種類を確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
5) 海流・大気の周期的変動 予習；海流と大気の流れの関連について概観する（30分）。復習；地球規模の変動について確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
6) 波 予習；波の部分について確認する（30分）。復習；波と流れの関連について確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
7) 災害の基本的な知識とグループ討議 予習；災害の部分の全体を概観する（30分）。復習；基本的な事項を再確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
8) 災害の記録1 予習；災害の記録1の部分概観する（30分）。復習；災害の記録1を再確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
9) 災害の記録2 予習；災害の記録2の部分概観する（30分）。復習；災害の記録2を再確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
10) 災害の記録3 予習；災害の記録3の部分概観する（30分）。復習；災害の記録3を再確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
11) 災害の記録4 予習；災害の記録4の部分概観する（30分）。復習；災害の記録4を再確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
12) 災害の記録5 予習；災害の記録5の部分概観する（30分）。復習；災害の記録5を再確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
13) 要点整理（グループ討議） 予習、復習はグループ討議で生じた疑問点の解決に費やす（1時間）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
14) 最近の自然災害と避難方法 予習；最新の自然災害情報について調べておく（30分）。復習；最新の災害への対処について確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
15) まとめ	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してください。 講義資料を復習して下さい。自分の住んでいる地域で自然災害が起こった時に避難するルート、避難の手順を確認しておくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。資料はClassroom上にアップする。	地球の現在・過去・未来

課題に対するフィードバック

毎回の課題提出で質問があった場合、次回の授業の最初にコメントする。

備考

科目名	現代教養研究 (健康と生活B)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	(国家技能検定)3級ファイナンシャル・プランニング技能士	

授業概要

社会人学生(教養履修学生)をおもな対象として、現代の健康づくりや生きがい、生活設計(ライフプランニングや終活を含む)などに関する文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。2021年度は国家技能検定(厚生労働省所管)「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」合格を目指した授業を行う。

到達目標

A3103
 国家試験「ファイナンシャル・プランニング技能士3級」に合格する。
 授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる。

成績評価方法

国家試験の合格を単位認定の必須要件とする。
 成績評価は国家試験の成績(学科試験・実技試験)の2科目の得点で総合的に判断する。

評価項目	評価基準						評価割合(%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	○	○	○	○			80
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 国家試験の説明をするので必ず出席すること	個人ワーク
2) ライフプランニングと資金計画 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
3) ライフプランニングと資金計画 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
4) リスク管理 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
5) リスク管理 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
6) 金融資産運用 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
7) 金融資産運用 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
8) タックスプランニング 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
9) タックスプランニング 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
10) 不動産の知識 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
11) 不動産の知識 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
12) 相続・事業承継 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
13) 相続・事業承継 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
14) 総括（国家試験直前対策） 予習：テキストを読む（45分） 復習：問題集を解く（45分）	個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括（国家試験の振り返り、レポート作成） 予習：国家試験の自己採点（45分） 復習：レポート作成（180分）	個人ワーク プレゼンテーション
授業外学習	
9月12日（日）に実施される国家試験「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」を必ず受験すること （国家試験の申し込みを7月27日（火）21時までに各自で済ませておくこと） 提出する課題に関する資料収集を行い、レポートとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・うかる！FP3級 速攻テキスト 2021-2022年版（日本経済新聞出版社） ・うかる！FP3級 速攻問題集 2021-2022年版（日本経済新聞出版社） 	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

質問のうち、即答可能なものは口頭で回答、補足が必要なものは資料を配布する

備考

COVID-19の感染拡大の状況によって開講しない場合がある
夜間の市民公開講座として開講する
電卓を持参すること
単位認定は国家試験の結果通知書を提出した者についてのみ行う

科目名	現代教養研究（環境と生活B）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	白石 義孝、松本 治彦	関連する資格		

授業概要

教養履修学生を対象として、環境とビジネスとの関係について、地球レベルから地域レベルの問題にいたるまで多面的に考察する。

取り上げるテーマとしては、地球温暖化予測の現状と世論の動向、石油等の化石燃料に替わる新しい天然資源の開発コスト、再生可能エネルギーに関するビジネス、燃料電池と水素などから受講者の興味関心に応じてテーマを決定し、関係する文献を講読する。その後、各自で資料を検索し、自分自身の考えをまとめて、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行ってもらおう。

到達目標

A3104

授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる。

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること	個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	グループワーク プレゼンテーション
12) レポート作成指導 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	個人ワーク プレゼンテーション
13) レポート作成指導 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	個人ワーク プレゼンテーション
14) レポート作成指導 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（60分）	個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括 予習：資料収集、プレゼン準備（60分） 復習：レポート作成（180分）	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
授業内で紹介する。	現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

質問のうち、即答可能なものは口頭で回答、補足が必要なものは資料を配布する

備考

今年度は開講しない

教養履修学生対象の授業のため、開講しない場合がある
市民公開講座として開講する場合がある
卒業予定の4年生の受講は認めない(卒業研究と両立できないため)

科目名	現代教養研究（総合研究A）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

教養履修学生を対象として、歴史や文化、健康と生活あるいは環境と生活に関する専門的な文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。

到達目標

ナンバリング(A4102)

授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること		個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
12) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
13) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
14) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括		グループワーク プレゼンテーション
授業外学習		
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
授業内で紹介する。		現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

備考

市民公開講座として開講する場合がある
今年度は開講しない

科目名	現代教養研究（総合研究B）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

教養履修学生のみを対象として、歴史や文化、健康と生活あるいは環境と生活に関する専門的な文献を講読し、知的教養を深めるとともに、地域社会に貢献できる人材の養成をねらいとする。（一般学生は受講できません）

到達目標

ナンバリング(A4103)

授業の内容に即して、各人が設定した研究テーマに対して、調査・資料作成・発表・レポート作成の一連の作業ができる

成績評価方法

授業への貢献度、個人研究発表の内容、期末レポートで総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							20
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 1) オリエンテーション 今期のテーマを発表するので必ず出席すること		個人ワーク
2) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
3) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
4) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
5) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
6) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
7) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
8) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
9) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
10) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
11) 文献講読および個人研究発表		グループワーク プレゼンテーション
12) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
13) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
14) レポート作成指導		個人ワーク プレゼンテーション
15) 総括		グループワーク プレゼンテーション
授業外学習		
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
授業内で紹介する。		現代教養研究、教養履修学生が受講できる全科目

課題に対するフィードバック

備考

履修条件：現代教養研究の ~ のうち3科目以上と を履修済みであること

科目名	HPコンピューティング演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	門間 政亮	関連する資格		

授業概要

【対面授業】

高度情報化社会においてコミュニケーションのツールとして日常生活や今後のビジネス現場でもHP(Home Page)は不可欠です。この演習では、情報化社会を生きるために必要となる、基本的な情報処理能力の育成を目的として、HPの作成方法やそのメンテナンス能力を身に付けます。

到達目標

A3201

- 1)HPを作成することができる。
- 2)HPのメンテナンスを行うことができる。

成績評価方法

各回のレポート、授業参加度を総合して評価します。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○		○			40
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○			50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) HP作成の基礎 【予習】シラバスを読む（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
2) HP作成の基礎 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
3) HP作成の基礎 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
4) 入門演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
5) 入門演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
6) 入門演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
7) 入門演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
8) 応用演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
9) 応用演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
10) 応用演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
11) 応用演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
12) 総合演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
13) 総合演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
14) 総合演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
15) 総合演習 【予習】前回のおさらい（10分） 【復習】操作方法の確認（20分）	
授業外学習	
<p>コンピュータは使えば使うほど上達します。授業で覚えた事を授業外でも繰り返し練習してください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

課題に対するフィードバック

次回の講義冒頭で解説を行います。

備考

- ・本演習の内容は、毎回覚えることが異なります。必ず毎回出席するようにしてください。
- ・授業時間数の3分の1を超えて欠席した場合、追加課題等の救済措置を取りません。

科目名	福祉住環境論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	福祉住環境コーディネーター 2 級	

授業概要

高齢者や障害者の住生活をサポートしていくためには、住環境に関する理解が不可欠である。本講義では、東京商工会議所が主催する福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格を目的として、建築や福祉用具といった住環境整備に関する事項についての共通理解を形成した上で、住宅改修や福祉のまちづくりの手法や考え方について、毎回の問題演習を通じて習得することをねらいとする。

到達目標

A4201
7月に実施予定の福祉住環境コーディネーター検定試験2級に合格する。
万一合格できなかった場合は、再履修登録の上、11月の試験にチャレンジすること。

成績評価方法

福祉住環境コーディネーター検定試験2級の得点を中心に評価する。
2019年以降の検定試験2級合格者は、合格証と成績表の原本と提示し、それらのコピーを提出することで単位認定を受けることができる。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
2) 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
3) 障害のとらえ方と自立支援のあり方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
4) 障害のとらえ方と自立支援のあり方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
5) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
6) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
7) 高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 障害別にみた福祉住環境整備 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
8) 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
9) 福祉住環境整備の共通基本技術 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
10) 福祉住環境整備の共通基本技術 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
11) 生活行為別福祉住環境整備の手法 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
12) 生活行為別福祉住環境整備の手法 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
13) 在宅生活における福祉用具の活用 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
14) 在宅生活における福祉用具の活用 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（60分）	個人ワーク
15) 総括・検定試験対策 予習：テキストを読む（60分） 復習：問題集を解く（120分）	個人ワーク
授業外学習	
毎回、事前にテキストの該当ページを読んでおくこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 東京商工会議所編『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 改訂5版』、2019年、東京商工会議所 参考書としては「福祉住環境コーディネーター」に関連する書籍を講義内で適宜紹介する	人体の構造と機能及び疾病 ・ 、社会保障論 ・ 、高齢者福祉論 ・ 、障害者福祉論 ・ 、介護概論

課題に対するフィードバック

質問は個別に対応する

備考

前期の開講期間は4月～7月（COVID-19の感染拡大状況によっては開講しない場合もある）
授業時間は18：30～20：40
後期は再履修登録のみ受け付ける
家庭の事情等で夜間に受講できない者は、個別に課題を出して指導するので事前に相談に来ること
【重要な変更点】2021年度より2級検定試験はIBT（インターネットでの試験）に変更されるので、受験するためには本人確認のためwebカメラとマイク・スピーカーの付いたパソコンが必要となります。

科目名	ビジネス情報			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

授業は対面で実施します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては遠隔授業（ズームを使った双方向型授業）に切り替える場合もあります。なお、どちらの形態の授業でも、Classroomを使って資料の配布、及び出席確認のため、各回の課題提出を求めます。必ず、提出してください。

世界は今、まさに「地下資源」から「地上資源」への転換が始まっている。太陽光やバイオマス、風力、地熱など地上に見えていて、使用されない資源は多くある。それらは不安定ですべてを賄えないという難点があるが、蓄電池、水素に転換、スマートグリッドなどを用いて安定供給することは可能。授業では、環境に配慮した新技術、新エネルギーなどについて現状と将来性に分けて言及。特に、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大でエネルギーに関する分岐点となりました。また「脱炭素」が世界中で起こり始めています。これらの点について授業を通じて深く洞察する。

到達目標

ナンバリング(A3202)
現在のビジネスの現状を把握し、将来企業でビジネスに関する新しいアイデアを生み出す。

成績評価方法

毎回の授業課題について提出した内容（出席確認も含める）、及び定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート	○	○					30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ビジネス情報の概論 予習；ビジネス情報資料の全般を概観する（30分）。復習；これから取り上げる項目について確認する（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
2) 地下資源の現状と将来？ 予習；地下資源の現状について調べておく（30分）。復習；地下資源の将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
3) 新エネルギーの現状と将来性？ 予習；新エネルギーの現状について調べておく（30分）。復習；新エネルギーの将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
4) 蓄電池、特にリチウムイオン電池とその将来性 予習；蓄電池、特にリチウムイオン電池の現状について調べておく（30分）。復習；蓄電池、特にリチウムイオン電池の将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
5) レアメタルの確保は？ 予習；レアメタルの現状について調べておく（30分）。復習；レアメタルの将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
6) 水ビジネスの将来性 予習；水ビジネスの現状について調べておく（30分）。復習；水ビジネスの将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
7) 要点整理（グループ討議） 予習、復習はグループ討議の中で生じたい疑問点を解決して、レポート作成の時間として有効に活用する（1時間）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
8) 燃料電池と水素社会の実現はいつ？ 予習；燃料電池と水素社会について調べておく（30分）。復習；燃料電池と水素社会の将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
9) 炭素繊維の現状と将来性？ 予習；炭素繊維の現状について調べておく（30分）。復習；炭素繊維の将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
10) 宇宙産業の将来性？ 予習；宇宙産業の現状について調べておく（30分）。復習；宇宙産業の将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
11) 農業の将来性？ 予習；農業の現状について調べておく（30分）。復習；農業の将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
12) AI・ロボット・自動運転の将来性？ 予習；AI・ロボット・自動運転の現状について調べておく（30分）。復習；AI・ロボット・自動運転の将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
13) GPS、位置情報、5Gとは 予習；GPS、位置情報、5Gの現状について調べておく（30分）。復習；GPS、位置情報、5Gの将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
14) Society5.0、量子コンピューターとは 予習；Society5.0、量子コンピューターの現状について調べておく（30分）。復習；Society5.0、量子コンピューターの将来について考えてみる（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
15) まとめ	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読する。 講義資料を復習する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。資料はClassroom上にアップする。	地球の現在・過去・未来、自然災害

課題に対するフィードバック

毎回の課題提出で質問があった場合、次回の授業の最初にコメントする。

備考

科目名	ベンチャービジネス論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	未定		関連する資格				
授業概要 人々の生活が多様化していく中で、新しいビジネスチャンスが広がっています。しかし、ひとくちにビジネスといっても様々なビジネスモデルがあり、新しい価値の創造、社会の中での存在意義、企業として果たす役割など検討しなければならない課題がたくさんあります。また、個人に目を向けると夢の実現や起業家としての考え方や責任なども学ばなくてはなりません。この授業では、起業するための考え方や社会での役割、ビジネスモデルの作り方から企業の成長において考えなければならない点など、起業における基本的な考え方からビジネスの成長に必要な基本的な知識と考え方を習得してください。							
到達目標 ナンバリング(A3203) ・会社が存在する意味について理解する。 ・会社を設立する上での手続きについて理解する。 ・自分の夢を語ることができ、実践するために夢の道筋を作成することができる。			成績評価方法 出席日数、ディスカッションでの発言、期末のレポートにより評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							40
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 起業における考え方、企業の存在意義と社会的責任、市場について学びます。	
2) 起業における考え方、企業の存在意義と社会的責任、市場について学びます。	
3) 起業における考え方、企業の存在意義と社会的責任、市場について学びます。	
4) 企業理念や組織について学びます。	
5) ビジネスプランについて学習し、ビジネスプラン作成時に必要な知識について学びます。	
6) ビジネスプランについて学習し、ビジネスプラン作成時に必要な知識について学びます。	
7) ビジネスプランについて学習し、ビジネスプラン作成時に必要な知識について学びます。	
8) ケーススタディ	
9) 実際の事業を進めていく上でのマネジメントについて学びます。	
10) 実際の事業を進めていく上でのマネジメントについて学びます。	
11) ビジネスプランの作成	
12) ビジネスプランの作成	
13) ビジネスプランの作成	
14) ビジネスプランの作成	
15) レポート課題発表	
授業外学習	
ベンチャービジネスについて、インターネット等で調べてから授業に臨むこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストはなし。参考書については授業中にその時々で授業内容に適した書籍を紹介する。	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	コンピュータとシミュレーション技術			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

コンピュータ技術の進化は、シミュレーション技術を飛躍的に進めた。コンピュータシミュレーション技術は機械、設計分野のみならず、環境、医療、福祉など、あらゆる分野で活躍する技術である。本講義では、まず、コンピュータの歴史・発展及びコンピュータ技術の発展とシミュレーション技術の関係について紹介する。次に、有限要素法によるシミュレーション技術の導入・基礎・手法・汎用ソフト・応用領域などについて講義する。

到達目標

A3401
 コンピュータによるシミュレーションに関する基本的知識を習得できる。
 応用事例を通して有限要素法シミュレーション技術を深く理解することができる。

成績評価方法

定期試験、レポート、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ガイダンス：授業概要	
2) コンピュータの出現 【予習】プリントP1～P3 (20分)【復習】コンピュータの出現(30分)	
3) コンピュータの世代、歴史と世代のまとめ 【予習】プリントP4～P5(20分)【復習】コンピュータの世代、歴史(30分)	グループワーク
4) コンピュータ技術の発展 【予習】プリントP4～P5(20分)【復習】コンピュータの世代、歴史(30分)	
5) 各分野におけるコンピュータ技術の応用 【予習】プリントP8～P9 (20分)【復習】各分野におけるコンピュータ技術の応用(30分)	
6) コンピュータによるシミュレーション技術 【予習】プリントP10～P12 (20分)【復習】第6章のシミュレーションの考え方、シミュレーションの重要性(30分)	
7) 設計シミュレーション技術の展開 【予習】プリントP12～P16 (20分)【復習】第6章のシミュレーションの種類と手法、第7章(30分)	グループワーク
8) 有限要素法によるシミュレーション 【予習】プリントP16～P18 (20分)【復習】第8章の有限要素法の考え方、特徴と基本概念 (30分)	
9) 有限要素法によるシミュレーション 【予習】プリントP19～P22 (20分)【復習】第8章の有限要素法の実際(30分)	
10) 有限要素法によるシミュレーション 【予習】プリントP22～P24 (20分)【復習】第8章の有限要素法の実例、補足資料1(30分)	
11) 有限要素法シミュレーションソフト 【予習】プリントP25～P29 (20分)【復習】第9章(30分)	
12) 配布する資料についてレポートを作成 【予習】補足資料2 (30分)【復習】第6～9章(60分)	個人ワーク
13) 各分野における有限要素法シミュレーション応用 【予習】プリントP29～P33 (20分)【復習】第10章の自動車工業における有限要素法シミュレーション応用(30分)	
14) 各分野における有限要素法シミュレーション応用 予習】プリントP34～P37 (20分)【復習】第10章の塑性加工工業、電気製品工業、建築・土木工業等における有限要素法シミュレーション応用(30分)	
15) 各分野における有限要素法シミュレーション応用 予習】プリントP38～P43 (20分)【復習】第10章の生体力学・医療、環境保全、宇宙開発分野における有限要素法シミュレーション応用(30分)	
授業外学習	
配布資料を熟読すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。プリントを配布する。	情報処理の基礎

課題に対するフィードバック

レポートなどの共通なことについて授業で説明する

備考

授業実施方法:遠隔授業(Classroomにより)

科目名	社会福祉調査法概論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	瀬崎 譲廣		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 社会調査は、「社会」を客観的に把握し、理解しようとするための方法です。私たちは社会の中で生活しているため、「社会」について、「なんとなく知っている」つもりでいたり、知らなくても生活に支障がないのでやり過ごしていたり、ということが普通にあります。私たちが普段曖昧にしている「社会」について、可能な限り明らかにすることが社会調査の目的です。 社会調査は学術的目的に限らず、行政サービスやビジネスなどの場面でも盛んに活用されています。社会福祉においても、サービスに対する利用者の満足度を調べたり、あらたなニーズを発掘する上でも有用なツールになります。 この授業では、社会調査の技法や、社会調査を行う上で必要なマナーやルール（倫理）について学習します。統計分析については、適宜実習を交えながら学習します。実習ではパソコンを用います。 なお、社会調査は社会福祉国家試験の受験科目でもあるので、社会福祉士を志望する方は受講することをお勧めします。							
到達目標 ナンバリング(A3402c) 社会調査の企画・設計、調査票の作成、データ分析を行う上で必要な概念や技法を理解する。 基本的な統計分析を理解し、自分で行えるようになる。			成績評価方法 定期考査でのレポートまたはテスト 授業で課す小レポート				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーリング 授業の説明、資格試験問題の解法など 復習：小レポート（10分程度）	
2) 科学観の変化と社会調査の意義 復習：小レポート（10分程度）	
3) 社会調査上の倫理 復習：小レポート（10分程度）	
4) 質的データの収集と分析 復習：小レポート（10分程度）	
5) 質的データの収集と分析 復習：小レポート（10分程度）	
6) 量的データの収集と分析 復習：小レポート（10分程度）	
7) 量的データの収集と分析 復習：小レポート（10分程度）	
8) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	
9) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
10) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
11) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
12) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
13) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
14) 統計・表計算ソフトを用いた量的データの分析 復習：小レポート（10分程度）	発表
15) まとめ	
授業外学習	
授業の中で、学習内容の理解を深めるため宿題を課します。また、宿題について発表をしてもらうことがあります。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書：特に用いない 参考書：授業の中で適宜紹介する	統計学、社会福祉援助技術演習

課題に対するフィードバック

小レポートには次回コメントを付けて返却。または、提出された小レポートをふまえた授業を行う。

備考

科目名	相談援助各論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	梅木 幹司	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

相談援助各論 で学んだ知識をさらに深め、そのうえで、集団を活用した相談援助の各過程に沿った形で各過程において必要となる知識を解説し、併せて実践にあたり必要となる知識について解説する。また、事例を検討することによりその実際について理解を深める。

到達目標

ナンバリング(A3403c)

集団援助技術の過程とそれに係る知識と技術について理解する。
事例分析の意義と方法について理解する。
相談援助の実際について理解する。

成績評価方法

単元毎に実施するグループワークと小レポートの評価と最終レポート（定期試験）との総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) グループワークとは何か 【予習】テキスト p.60～p.66を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		授業内レポート
2) グループワークの原則と基本姿勢 【予習】テキストp.60～p.66を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
3) グループワークの沿革 【予習】事前に配付する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
4) グループワークの対象 【予習】事前に配付する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
5) グループワークの形態 【予習】事前に配付する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
6) グループワークの技術 【予習】事前に配付する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
7) グループワークの過程（準備期） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		グループワーク、小レポート
8) グループワークの過程（開始期） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		グループワーク、小レポート
9) グループワークの過程（作業期） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		グループワーク、小レポート
10) グループワークの過程（評価） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		グループワーク、小レポート
11) グループワークの過程（終結、移行） 【予習】テキスト p.66～p.71を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		グループワーク、小レポート
12) 記録と個人情報の保護 【予習】事前に配付する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
13) 事例分析の方法とスーパービジョン 【予習】事前に配付する資料を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
14) グループワークの実際と事例分析 【予習】テキスト p.60～p.80を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
15) グループワークの実際と事例分析 【予習】テキスト p.60～p.80を読んでおく（20分） 【復習】小レポート作成（30分）		小レポート
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
参考書：新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法』中央法規 教材：配付資料		相談援助総論 相談援助総論 相談援助各論 相談援助各論 相談援助各論

課題に対するフィードバック

授業内レポートおよび小レポートはコメントをつけて返す。

備考

科目名	相談援助各論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	岩金 俊充		関連する資格	社会福祉士受験資格 高等学校教諭(福祉)一種免許状			
<p>授業概要</p> <p>相談援助におけるさまざまな理論や技法を基にして、実際の支援がどのように展開していくのかということ学ぶ。また、現在の社会問題を取り上げて、どのような支援やソーシャルアクションを行っていけば解決につながるのかについて、プレゼンテーションやディスカッションをしながら学ぶ。 ソーシャルワークの実践家として、どのような姿勢で支援に臨めばよいか学ぶ。</p> <p>授業は、「Google Classroom」を活用し、オンデマンド型の遠隔授業で実施する。 PowerPointによるスライドや各種学習資料の配信を基に、課題提示から締め切りまでの間（基本的に1週間）に、課題を提示することにより出席とし、提出課題を総合的に評価する。</p> <p>中学校教員、知的障害者施設での支援員、スクールソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカースーパーバイザーとしての実務経験をもとに、スクールソーシャルワークの価値と理論、具体的支援についての授業を行う。</p>							
到達目標			成績評価方法				
ナンバリング(A3404c)			「Google Classroom」により学習資料と課題を提示する。 提示から締め切りまでの間（基本的に1週間）に、課題を返却することにより出席とする。締め切り日を過ぎた場合は欠席とする。ただし、事前に許可を願い出て認められた場合は除く。 採点後の再提出は認めない。ただし、講師側から再提出の指示があった場合は、示した期日までに再提出すること。期日までに再提出がなされなければ欠席とする。 提出された課題を総合的に評価する。				
1.相談援助活動の実際と事例の分析・方法について理解する。 2.相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解し、説明することができる。 3.相談援助において、他の関係機関や専門職との連携について説明できる。 4.困難を抱える人々の心情を感じ取り、環境や生活の質の向上についての問題意識を持ち、自分なりの考えを述べるようになる。 5.事例を理論やモデルに基づいて考察し、好転に向けた具体的な支援計画を立てることができる。							
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 相談援助の対象：システム理論による全体的、包括的な対象理解 【予習】テキスト「第1章・相談援助～対象の理解」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	
2) ケースマネジメントの過程とソーシャルワークの関係 【予習】テキスト「第2章・ケースマネジメント」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
3) グループを活用した相談援助 【予習】テキスト「第3章・グループ～相談援助」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
4) コーディネーションとネットワークング 【予習】テキスト「第4章・コーディネーション～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
5) 社会資源の活用：既存資源の再資源化、新規開発、組織の地域化 【予習】テキスト「第5章・相談援助～社会資源」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
6) 実践モデルとアプローチ ・事例をもとに 【予習】テキスト「第6章・様々な実践モデル～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
7) 実践モデルとアプローチ ・事例をもとに 【予習】テキスト「第7章・様々な実践モデル～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
8) 実践モデルとアプローチ ・事例をもとに 【予習】テキスト「第8章・様々な実践モデル～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
9) スーパービジョンとコンサルテーション・グループワーク 【予習】テキスト「第9章・スーパービジョン～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
10) ケースカンファレンスの技術 【予習】テキスト「第10章・ケース～の技術」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
11) 相談援助と個人情報の保護・情報通信技術・社会福祉士の倫理綱領 【予習】テキスト「第11章・第12章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
12) 相談援助と個人情報の保護・情報通信技術・社会福祉士の倫理綱領 【予習】テキスト「第11章・第12章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
13) 事例研究・事例分析・相談援助の実際 ・事例から考察・演習 【予習】テキスト「第13章・事例研究～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
14) 事例研究・事例分析・相談援助の実際 ・事例から考察・演習 【予習】テキスト「第13章・事例研究～」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
15) 総括・相談援助について・相談支援におけるアプローチと実際の展開 【予習】テキスト「第14章・相談援助の実際」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読む	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
授業外学習	
相談援助に関する複数の新聞記事から、自らの考えをまとめ、その支援方法について考察し提出します。 講義資料とテキストで学習し、関係する情報や資料を集め、取り組んでください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『相談援助の理論と方法』中央法規 毎回レジメと、関連資料を配布する。	相談援助総論 相談援助各論 地域福祉論

課題に対するフィードバック

提出された課題に、コメントと評価を付けて返却します。
他の学生の参考になるものについては、学生本人の許可が得られれば、GoogleClassroomにて共有します。

備考

学習意欲や、課題への取り組み態度を重視します。
福祉的視点のない記述や、社会人として通用しない表現等は不可、もしくは再提出とします。
課題の締め切り厳守です。

科目名	相談援助各論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	吉島 豊録	関連する資格	社会福祉士受験資格 高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

ケアマネジメント技法の概念や機能について学び、サービス利用者を取り巻く支援体系を理解する。また、実践事例を通して、その技法を修得する。
さらに知識・技術の統合を目指し、相談援助職としての専門性について考える。
ソーシャルワーカー、介護支援専門員の実務経験をもとに、ケアマネジメント、アセスメントについて講義を行う。
新型コロナウイルスの感染者等の状況によっては、遠隔オンライン(対面)での講義を行う。

到達目標

ナンバリング(A3405c)

- ・ 専門援助技術の目的と機能を理解したうえで、技法を身につける。
- ・ 専門援助技術における知識と技術の統合について考える。

成績評価方法

小テスト、レポートと演習の参加度から総合的に評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							30	
小テスト、授業内レポート							30	
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション							10	
グループワーク							10	
演習							10	
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 岡村理論とケアマネジメント 【復習】岡村重夫の功績を調べる	ディスカッション、小レポート
2) ケアマネジメントの目的と機能 【予復習】ケアマネジメントとはどのようなものか、他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
3) ケアマネジメントの必要性 【復習】第1講、第2講、第3講についてのまとめレポート作成。（70分）	ディスカッション、小レポート
4) ケアマネジメントプロセスとアセスメント 【予復習】ケアマネジメントプロセスを暗記する。小レポートに続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
5) 事例による4)の理解（1） 【予復習】事例とケアマネジメントプロセスをつなげて考える（1）。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
6) 事例による4)の理解（2） 【予復習】事例とケアマネジメントプロセスをつなげて考える（2）。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
7) 事例による4)の理解（3） 【予復習】事例とケアマネジメントプロセスをつなげて考える（3）。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
8) 事例による4)の理解（4） 【予復習】事例とケアマネジメントプロセスをつなげて考える（4）。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
9) アンビバレントの見つけ方（1）事例による理解 【予復習】アンビバレントについて他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
10) アンビバレントの見つけ方（2）事例による理解 【予復習】身近なアンビバレントを探す。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
11) ストレンクス視点 事例による理解 【予復習】ストレンクス視点とは何かを他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
12) ニーズの構造 【予復習】ニーズの構造について他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
13) 長期目標、短期目標の考え方 【予復習】長期目標、短期目標について他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
14) 事例による11)12)の理解（1） 【予復習】長期目標、短期目標について他者に説明できるようにする。小レポートの続き。（70分）	ディスカッション、小レポート
15) 事例による11)12)の理解（2） 【復習】ニーズの構造、長期目標、短期目標について他者に説明できるようにする。小レポートからの考察（120分）	ディスカッション、小レポート
授業外学習	
復習：小レポートを完成させる。学んだことを言語化できるようにすること。 予習：提供されたキーワードをもとに調べ学習をしておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適時配布する。 参考書 『社会福祉援助技術論(下)』 ミネルヴァ書房 『社会福祉援助技術論 (新版第4版)』 中央法規 『相談援助の理論と方法』 中央法規 『ケアマネジメント用語辞典』 ミネルヴァ書房	相談援助総論 , 相談援助各論 , ,

課題に対するフィードバック

小レポートについては、翌週の授業でシェアする。
そのうえで、講評・補足説明をする。

備考

科目名	社会福祉史			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

社会福祉の見方を確認するためには、西洋の社会福祉の歴史の流れをダイナミックに捉えることが重要である。日本の社会福祉は、現在、社会福祉関連の多様な問題が表面化するなかで、措置制度に代わって、契約制度が社会福祉の中核の制度になっている。以上を踏まえ、本講義において、西洋ではイギリスの歴史を中心に講義し、社会福祉の1つの視点を学ぶ端緒としたい。そして、日本の幕末から明治期以降の社会福祉史を概略史的に追い、日本の社会福祉の特徴を探る手がかりとしたい。

到達目標

ナンバリング(A3406)

- ・イギリスと日本の基本的な社会福祉の通史を理解する。
- ・イギリスと日本の思想史を理解する。
- ・イギリスと日本の制度・政策史を理解する。

成績評価方法

学期末の筆記試験を中心に、授業時間の課題を勘案して評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							85
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 社会福祉史とは：社会福祉士の目標と住居計画について講義 社会科学と社会福祉の歴史研究	授業内レポート
2) 貧困問題とエリザベス救貧法（イギリス）：貧困問題の発生原因、旧救貧法の成立、1597年法と1601年法	
3) 救貧法成立の背景にある社会思想（イギリス）：旧救貧法の展開、古典派経済学者と功利主義者の社会思想	
4) 新救貧法の成立 - 人道主義的救貧法成立を踏まえて - （イギリス）：救貧法の「人道主義化」、新救貧法	
5) 民間社会福祉の形成と展開 - 慈善組織協会とセツルメント - （イギリス）：慈善組織協会（Charity Organisation Society：COS）とセツルメント（Settlement）	
6) 社会主義の台頭（と貧困調査）（イギリス）：ユートピア社会主義、『進歩と貧困』とマルクス社会主義、フェビアン社会主義	
7) 「救貧法並びに貧困救済に関する王立委員会」の設立（イギリス）：王立委員会の設立の背景と目的、『多数派報告』と『少数派報告』	
8) 社会立法の動向 - 自由改良主義の意味 - （イギリス）：社会立法成立過程における国民保険法、失業問題と公的扶助の成立	
9) サッチャー政権時代の社会福祉と新自由主義（イギリス）：サッチャー政権の特徴、サッチャリズムの思想基盤	
10) コミュニティ・ケアを中心とした社会福祉改革（イギリス）：ソーシャルワークとコミュニティ・ケア、コミュニティ・ケアの展開	
11) ブレア政権の社会福祉（イギリス）：ニュー・レイバーの登場、ブレア首相の改革	授業内レポート
12) 社会事業前史（幕末以降を中心に）（日本）：慈善救済、明治初期の貧困救済	
13) 社会事業と厚生事業 - 民間活動を含めて - （日本）：社会事業の成立と厚生事業期、明治期の民間活動	
14) 戦後、社会福祉の成立と展開（日本）：占領期の社会福祉と福祉見直し、社会福祉の実践思想、社会福祉改革の動向	
15) イギリスと日本における社会福祉史の比較分析と今後の課題：イギリスの社会福祉史の概要と日本の社会福祉史の概要と比較分析	授業内レポート
授業外学習	
授業計画を確認して、各授業内容に該当するテキストの章を読んで、予習をしておいてください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト ・『社会福祉のあゆみ』、金子光一著、有斐閣、2,000円＋税 ・授業時間の配布資料	社会福祉士、精神保健福祉、介護福祉士試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	社会福祉行財政論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	西田 隆		関連する資格	社会福祉士受験資格 精神保健福祉士受験資格			
授業概要 対面授業 福祉行財政と福祉計画について理解する。 社会福祉を担う行政機関としての国及び地方自治体、専門職、地域住民の役割等を考察することによって、社会福祉を支える制度枠組みである福祉行財政論と福祉計画の全体像を理解する。 <div style="text-align: right;">国及び地方自治体の</div>							
到達目標 ナンバリング(A3407cd) 1. 社会福祉行政の実施機関の役割と機能について理解する。 2. 社会福祉の財源について理解する。 3. 社会福祉計画の目的・法令について理解する。 4. 実際の計画を参考に、社会福祉計画の策定について理解する。			成績評価方法 授業中に実施する小テスト、レポート、定期試験により、総合的に評価。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	社会福祉行財政の基礎知識 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
2)	社会福祉制度の歴史 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
3)	社会福祉法 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
4)	社会福祉法 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
5)	社会福祉行政 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
6)	社会福祉財政 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
7)	社会福祉行政の機関と専門職 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
8)	社会福祉行政のまとめ 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト レポート
9)	福祉計画の目的と意義 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
10)	福祉計画の技法 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
11)	高齢者福祉関係の計画 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
12)	障害者福祉関係の計画 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
13)	児童福祉関係の計画 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
14)	地域福祉計画 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト
15)	演習 【復習】配布資料の再読（30分）	小テスト グループワーク
授業外学習		
新聞やニュースなどで、関連する報道がないかチェックして、それについて考察してください。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
配布資料		

課題に対するフィードバック

レポートは翌週コメントをつけて返す。

備考

科目名	福祉施設運営論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	吉久 浩之		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 福祉サービスにおける組織や団体について学んだうえで、その管理運営について理解を深める。また、関連する法制度や福祉サービスの動向と課題についても概説する。 社会福祉施設管理者・社会福祉法人理事及び特定非営利活動法人理事の実務経験をもとに、各法人形態・施設形態について運営・経営面での授業を行う。 授業はGoogle Classroomを活用し、遠隔で実施する。							
到達目標 ナンバリング(A3408c) 1. 福祉サービスに係る組織や団体について理解する。 2. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 3. 福祉サービス提供組織の経営と運営管理、またその方法と実際について理解する。			成績評価方法 福祉サービスの組織・団体について列挙し組織経営（P D C A等を含む）の基礎を解読するとともに、実践についても認識をすること。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 福祉サービスの特質 【予習】テキストP2～P11までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
2) 福祉サービスと制度 【予習】テキストP12～P17までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
3) 福祉サービスにかかわる組織・団体 【予習】テキストP20～P32までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
4) 社会福祉法人・特定非営利活動法人 【予習】テキストP33～P62までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
5) 医療法人・営利法人など 【予習】テキストP63～P75までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	小テスト
6) 経営戦略・事業計画 【予習】テキストP78～P92までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
7) 集団力学・リーダーシップ理論 【予習】テキストP93～P119までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	グループワーク
8) サービスの質について 【予習】テキストP122～P152までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
9) リスクマネジメント 【予習】テキストP153～P174までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	グループワーク
10) 人事・労務管理 【予習】テキストP176～P203までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
11) 人材育成 【予習】テキストP204～P222までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
12) 社会福祉法人の会計 【予習】テキストP224～P256までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	グループワーク
13) 情報管理と戦略的広報 【予習】テキストP258～P276までを読んでおく（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
14) 総括・まとめ 【予習】全体を通じて重要指摘事項について再読（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
15) 総括・まとめ 【予習】全体を通じて重要指摘事項について再読（30分） 【復習】講義内容について（30分）	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『福祉サービスの組織と経営』中央法規	社会福祉関係各法に基づく科目 社会福祉援助技術現場実習指導 、 、 、

課題に対するフィードバック

小テストについては、翌週ポイント解説いたします。
尚、社会福祉士国家試験過去問について講義途中で解説いたします。

備考

科目名	公的扶助論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	梅木 幹司	関連する資格	社会福祉士、精神保健福祉士	

授業概要

本講義では、わが国の公的扶助制度を中心的に担う生活保護制度について、その役割や仕組みを理解する。また、近年の貧困や低所得者についての現状を理解し、これらの人々に対するソーシャルワーク実践に必要な知識を修得する。

到達目標

ナンバリング(A3409cd)

公的扶助制度の概念および社会保障における位置づけを理解し説明することができる。

公的扶助制度の現在に至るまでの歴史的変遷を理解し説明することができる。

貧困問題について興味や関心を持ち、生活困窮者に対してストレングスや権利擁護の視点に基づいた支援を考えることができる。

ソーシャルワーク実践に必要な公的扶助制度における知識を修得することができる。

生活困窮者が存在する社会的背景を理解し、マクロの視点で考察することができる。

成績評価方法

毎回、前回の授業内容についての小テスト（四択）を実施する。小テスト、課題レポート、定期試験（多肢選択、穴埋め、記述式を含む）により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)				○			50
小テスト、授業内レポート			○				30
宿題、授業外レポート		○	○	○			10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○	○	○		5
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 貧困問題とソーシャルワーク：初回ガイダンス。近年の貧困問題や、それに対するソーシャルワークの役割を概説する。【予習】新聞記事等から近年の貧困問題を調べる。(30分)【復習】本日の授業内容の復習(30分)	授業内レポート
2) 公的扶助制度の概念について：公的扶助制度の概念や社会保障制度におけるその位置づけを概説する。【予習】教科書のP1～15を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
3) 貧困・低所得者問題について：貧困・低所得者の定義やそれらを取り巻く社会情勢と生活課題を概説する。【予習】教科書のP18～33を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
4) 公的扶助の歴史的展開(海外編)：イギリスやアメリカの社会保障制度や貧困対策の歴史について概説する。【予習】教科書のP36～43を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
5) 公的扶助の歴史的展開(日本編)：わが国の社会保障制度の発展過程や貧困対策の歴史について概説する。【予習】教科書のP44～62を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
6) 生活保護制度：生活保護制度の基本原則について概説する。【予習】教科書のP64～74を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
7) 生活保護制度：保護の種類とその内容および生活保護基準について概説する。【予習】教科書のP75～91、P106～135を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
8) 生活保護制度：受給中の権利および義務について概説する。【予習】教科書のP92～104を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
9) 生活保護制度：実施体制と関係機関・団体の役割について概説する。【予習】教科書のP206～221を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
10) 生活保護制度：相談援助活動の実際について事例等を用いて概説する。【予習】教科書のP224～252を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
11) 生活保護制度：生活保護の動向と課題について統計資料等を通じて概説する。【予習】教科書のP138～162を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
12) 低所得者対策：生活困窮者自立支援法と社会手当制度などについて概説する。【予習】教科書のP164～186を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
13) 低所得者対策：ホームレス対策等について概説する。【予習】教科書のP187～203を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
14) 自立支援プログラム：自立支援プログラムの意義と実際について概説する。【予習】教科書のP254～272を一読する。(30分)【復習】本日の授業内容の復習と小テストの解答を調べる(30分)	小テスト
15) 貧困問題におけるソーシャルワーカーの今後の役割：本講義の全体のまとめと専門職として貧困問題にどのように取り組むべきかを検討する。【復習】今回の講義内容を含む全体の内容についての復習(60分)	小テスト グループワーク
授業外学習	
毎回授業内で小テストを実施するため、前回の授業についてはしっかりと復習をしてください。また、各回の授業については、教科書を一読することにより予習をしてください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> ・『低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版』（新・社会福祉士養成講座16）、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版、2,200円＋税 ・授業時間の配付資料 	社会福祉士、精神保健福祉士国家試験受験資格に関する科目、社会福祉史

課題に対するフィードバック

小テストは、授業を実施した日の翌週にその内容分を実施し、そのまた翌週に解説を行います。1つの单元について、講義、小テスト、解説を3週にわたって行うことで知識の定着を図ります。

備考

- ・ 講義内容によっては、視聴覚教材を用いる時があります。
- ・ 履修するにあたっては、専門職を目指す者としての態度と自覚をもって臨んでください。

科目名	就労支援サービス論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	梶谷 紀幸	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

【対面授業】労働施策の概要や労働法規を踏まえ、障害者の就労支援を中心としつつ、低所得者や高齢者の就労支援についても理解を深める。また、国家試験の傾向と対策を通じて、これらをより確実に身につける。それらをもって、学生が就労支援の職に就いた際、相手の立場になって話を聞き、辛さや困難さ、現実とのギャップを察することができ、効率良く相手が納得する支援が可能になることを目指す。講師の就労移行支援及び就労継続支援B型事業におけるサービス管理責任者及び管理者、障害者就業・生活支援センターにおける相談員としての活動の経験をもとに、就労支援について授業を行う。

【遠隔授業】新型コロナウイルスの状況により遠隔授業となった場合、目指すものは対面授業と同じでありながらも、直接的なレクチャーが困難となる。しかし、受講生全ての課題に対して随時アドバイスをする。よって、アドバイスを受けながら何度も再提出を繰り返して、最終的に提出期限内に提出することとなるため、課題を公表して直ぐに取り掛かる必要がある。また、指示に従わなかったり期限を過ぎた場合などは授業態度が悪いとみなす。

到達目標

ナンバリング(A3410c)

- ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
- ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。
- ・就労支援分野との連携について理解する。
- ・事例を通じて、相談者のニーズに充足する支援方法を想像できる能力を養う。

成績評価方法

試験結果及び授業態度（意欲、態度、復習の程度）

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							5
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、労働を取り巻く状況 【復習】授業内容再確認 20分	
2) 福祉的就労の種類と現状 【復習】授業資料再確認 20分	
3) 障害者就業・生活支援センターの機能 【復習】授業資料再確認 20分	
4) 障害者職業センターとハローワーク 【復習】授業資料再確認 20分 【予習】事例に対する支援方法検討 60分	
5) モデルケースを用いた支援の演習 【復習】授業資料再確認 20分	プレゼンテーション ディスカッション
6) 就労支援制度の概要（関係法規とその他の支援制度） 【復習】授業資料再確認 20分 【予習】事例に対する支援方法検討 60分	
7) モデルケースを用いた支援の演習 【復習】授業資料再確認 20分 【予習】事例に対する支援方法検討 60分	プレゼンテーション ディスカッション
8) まとめ、国家試験の傾向	振り返り
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>似たような制度ばかり出てきます。何がどう違うのか、授業で配布する資料にしっかりと目を通し、それぞれの違いを理解するよう努めましょう。また、事例を通して支援方法を検討していきます。予習の段階で自分なりの考えをまとめておかないと授業になりません。自分なりの意見をもって授業に臨んでください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：適宜、プリントを配布する。 参考図書：「必携社会福祉士」筒井書房 「社会福祉士国家試験 模擬問題集2019」中央法規</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ・低所得者に対する支援と生活保護制度

課題に対するフィードバック

授業でのプレゼンテーション及びディスカッションの中で、補足及び助言をしていく。

備考

科目名	司法福祉論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	朴 元奎	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

本授業は対面で実施する。
更生保護領域を中心に、司法領域における福祉の役割と制度、この制度に係る専門職・組織・団体、相談支援活動のあり方と実際について学ぶ。

到達目標

ナンバリング(A3411c)

1. 更生保護領域を中心に、司法福祉領域における制度とこれら制度を支える組織・団体・専門職についての知見を得ることができる。
2. 更生保護領域を中心に、司法福祉領域における相談援助活動を行うための知見を得ることができる。
3. 更生保護領域を中心に、司法領域にある関係機関や専門職等との連携のあり方を理解することができる。

成績評価方法

定期（期末）試験（70％）レポート（20％）及び受講態度（10％）で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート		○					10
宿題、授業外レポート		○					10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス 更生保護概説 「1 刑事司法のなかの更生保護」 【予習】教科書 第1章第1節 2-14頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と作成（60分）	質疑応答、レポート
2) 更生保護概説 「2 仮釈放等」 【予習】教科書 第1章第2節 15-22頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と作成（60分）	質疑応答
3) 更生保護概説 「3 保護観察」 【予習】教科書 第1章第3節 23-36頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と作成（60分）	質疑応答
4) 更生保護概説 「4 生活環境の調整」「5 更生緊急保護」 【予習】教科書 第1章第4節、第5節 37-49頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と作成（60分）	質疑応答
5) 更生保護概説 「6 更生保護における犯罪被害者等施策」「7 恩赦」「8 犯罪予防活動」 【予習】教科書 第1章第6節、第7節、第8節 50-60頁（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
6) 更生保護制度の担い手「1 保護観察官」 【予習】教科書 第2章第1節 62-63頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、レポート
7) 更生保護制度の担い手「2 保護司」 【予習】教科書 第2章第1節 65-67頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、レポート
8) 更生保護制度の担い手「3 更生保護施設」「4 民間協力者」 【予習】教科書 第2章第3節、第4節 68-76頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、レポート
9) 更生保護制度における関係機関・団体との連携（1） 【予習】教科書92-101頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
10) 更生保護制度における関係機関・団体との連携（2） 【予習】教科書 92-101頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
11) 医療観察制度の概要（1） 【予習】教科書 第4章 104-110頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、フィールド・スタディ
12) 医療観察制度の概要（2） 【予習】教科書 第4章第4節、第5節 111-115頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答、レポート
13) 更生保護の実態と今後の展望 「1 保護観察官の業務の実態」 【予習】教科書 第5章第1節 118- 129 頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
14) 更生保護の実態と今後の展望 「2 社会復帰調整官の業務の実態」 【予習】教科書 第5章第2節 130-135頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
15) 更生保護の実態と今後の展望 「3 更生保護の今後の展望」 【予習】教科書 第5章第3節 136-144頁を読んでおく（30分） 【復習】授業ノートの整理と疑問点を調べて加筆しておく（60分）	質疑応答
授業外学習	
<p>毎回、授業内容に関連した教科書の指定された箇所を事前に読んでくること。授業後は授業の内容について重要なポイントになった点、疑問点などをノートなどを作成し、授業内容の知識の定着と、その理解を図ること。疑問点などについては必要に応じて担当教員に積極的に質問することが望ましい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】 『新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 第4版』（中央法規、2017）。 【参考書】 藤本哲也その他編『よくわかる更生保護』（ミネルヴァ書房、2016）、松本勝編『更生保護入門【第4版】』（成文堂、2015）</p>	<p>法学、犯罪心理学</p>

課題に対するフィードバック

レポートは次回の授業時にコメントをつけて返す。

備考

オフィスアワー；非常勤講師による集中講義であるため、毎授業終了後に教員控室において質問・相談に応じます。

科目名	社会福祉援助技術演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	2	3年	前期			
担当者名	三輪 直之		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 この授業は対面で実施する。 技法の習得を具体的な事例やロールプレイ等を活用しつつ、個別・集団指導を通して演習を行う。 ケーススタディに関しては具体的な相談援助事例（社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレス、危機介入、権利擁護等）を活用し、ケースマネジメントの過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）及びアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発を含む演習を行う。 この授業は、教員（三輪）の社会福祉現場での実務経験をもとに、対人援助の技法使用についての実践的授業を展開する。							
到達目標 A3412c 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。			成績評価方法 レポート、個人・グループ学習、演習の振り返りシートによる総合評価を行う。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							60
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 面接と専門的援助的態度（方法と留意点）講義	
2) 面接と専門的援助的態度（方法と留意点）講義	
3) コミュニケーション・面接の実際（ロールプレイ） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～6）で1セット	ペアワーク
4) コミュニケーション・面接の実際（ロールプレイ、振り返り） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～6）で1セット	ペアワーク グループワーク
5) コミュニケーション・面接の実際（グループワーク） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～6）で1セット	グループワーク
6) コミュニケーション・面接の実際（グループワーク、振り返り） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～6）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
7) コミュニケーション・面接と対人関係（ロールプレイ） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～10）で1セット	ペアワーク
8) コミュニケーション・面接と対人関係（ロールプレイ、振り返り） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～10）で1セット	ペアワーク グループワーク
9) コミュニケーション・面接と対人関係（グループワーク） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～10）で1セット	グループワーク
10) コミュニケーション・面接と対人関係（グループワーク、振り返り） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～10）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
11) 児童・家庭福祉のケーススタディ（虐待、家庭内暴力を含む）（方法と留意点）（山根）【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11）～14）で1セット	グループワーク
12) 児童・家庭福祉のケーススタディ（事例発表と質疑応答） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11）～14）で1セット	グループワーク
13) 児童・家庭福祉のケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11）～14）で1セット	ペアワーク グループワーク
14) 児童・家庭福祉のケーススタディ（発表と指導） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 11）～14）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
15) 身体障害者福祉のケーススタディ（自立、社会参加を含む）（方法と留意点）【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15）～18）で1セット	グループワーク
16) 身体障害者福祉のケーススタディ（事例発表と質疑応答） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15）～18）で1セット	グループワーク
17) 身体障害者福祉のケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15）～18）で1セット	ペアワーク グループワーク
18) 身体障害者福祉のケーススタディ（発表と指導） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 15）～18）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク
19) 知的障害者福祉のケーススタディ（権利擁護、社会参加を含む）（方法と留意点）【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19）～22）で1セット	グループワーク
20) 知的障害者福祉のケーススタディ（事例発表と質疑応答） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19）～22）で1セット	グループワーク

21) 知的障害者福祉のケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19）～22）で1セット	ペアワーク グループワーク
22) 知的障害者福祉のケーススタディ（発表と指導） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 19）～22）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
23) 高齢者福祉のケーススタディ（虐待、権利擁護を含む）（方法と留意点） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 23）～26）で1セット	グループワーク
24) 高齢者福祉のケーススタディ（事例発表と質疑応答） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 23）～26）で1セット	グループワーク
25) 高齢者福祉のケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 23）～26）で1セット	ペアワーク グループワーク
26) 高齢者福祉のケーススタディ（発表と指導） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 23）～26）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
27) 低所得者・ホームレスのケーススタディ（社会的排除問題を含む）（方法と留意点） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 27）～30）で1セット	グループワーク
28) 低所得者・ホームレスのケーススタディ（事例発表と質疑応答） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 27）～30）で1セット	グループワーク
29) 低所得者・ホームレスのケーススタディ（グループワーク、ロールプレイ） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 27）～30）で1セット	ペアワーク グループワーク
30) 低所得者・ホームレスのケーススタディ（発表と指導） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 27）～30）で1セット、小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート

授業外学習

4)、8)、12)、16)、20) 24)、28)の後に、グループワークの課題について考え・意見をまとめ、次回のグループワークで発言できるようにしておく。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜資料を配布する。	社会福祉援助技術演習

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。ただし、最終回のみ別途日時を設定して返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	三輪 直之	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

この授業は対面で実施する。
 具体的な事例等を活用しつつ、個別・集団指導を通して演習を行うことにより、相談援助に必要な各技法を修得する。
 この授業は、教員（三輪）の社会福祉現場での実務経験をもとに、対人援助の技法使用についての実践的授業を展開する。

到達目標

A3413c
 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。
 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

成績評価方法

レポート、個人・グループ学習、演習の振り返りシートによる総合評価を行う。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート							10	
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習							60	
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) マッピング技法（ジェノグラム、ファミリーマップの概説と作成演習） 【復習】演習課題について検討する（30分） 1）～2）で1セット	個人ワーク
2) マッピング技法（エコマップの概説と作成演習） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
3) ロールプレイの技法（ ・ の復習と新たな方法） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 3）～4）で1セット	ペアワーク
4) ロールプレイの技法（ ・ の復習と新たな方法） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	ペアワーク グループワーク 小レポート
5) 記録の技法（講義と個別作成演習） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 5）～6）で1セット	個人ワーク
6) 企画書の作成技法（講義と個別作成演習） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
7) 社会福祉調査と地域診断（アウトリーチとニーズ把握）（ケーススタディ） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 7）～8）で1セット	個人ワーク グループワーク
8) 社会福祉調査と地域診断（アウトリーチとニーズ把握）（ケーススタディ） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
9) 地域福祉計画（課題のグループ作成） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
10) ネットワーキング（課題のグループ作成） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 10）～11）で1セット	グループワーク
11) ネットワーキング（課題のグループ作成） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
12) 社会資源の活用・調整・開発（課題のグループ作成） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 12）～13）で1セット	グループワーク
13) 社会資源の活用・調整・開発（課題のグループ作成） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
14) サービス評価（課題のグループ作成） 【予習】事前配布した資料を熟読する（30分）【復習】演習課題について検討する（30分） 14）～15）で1セット	グループワーク
15) サービス評価（課題のグループ作成） 【予習】演習課題について検討する（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
授業外学習	
課題について、通常の予復習とは別に、授業外で作成し、報告してもらうものがある（授業時に指示する）。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜資料を配布する。	社会福祉援助技術演習 ・

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。ただし最終回分については日時を設定し返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	3年	前期			
担当者名	三輪 直之		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 この授業は、対面で実施する。 本科目は「社会福祉援助技術現場実習」の事前指導にあたる。現場実習直前の指導として 実習施設・機関の理解、福祉施設・機関の利用者の理解を中心として学習を深め、実習計画書を作成する。 また、「実習記録ノート」の記録内容及び記録方法についても学び、記録を取るこの意味やより良い記録方法について学ぶ。さらに「個人のプライバシーの保護」や「守秘義務」等の実習生として求められる姿勢・価値観・心構えについても学ぶ。 この授業は、教員（三輪）の社会福祉現場での実務経験をもとに、実習理解と実習準備に関する授業を展開する。							
到達目標 A3414c 実習生としての姿勢・価値観・心構えを学び、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 「個人のプライバシーの保護」「守秘義務」「信用失墜行為の禁止」などの相談援助専門職として大切な価値観を習得する。 「実習記録ノートを書くこと」の意味を理解し、より良い記録をするための、記録内容及び記録方法について学ぶ。			成績評価方法 個人票、実習計画書の提出、グループ学習による総合評価を行う。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							40
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション - 社会福祉援助技術現場実習にむけてのイントロダクション 【復習】実習および実習までのスケジュールの確認（20分）	
2) 社会福祉援助技術現場実習の目的と意義 - 実習の目的と達成課題、実習及び実習指導における個別指導と集団指導の意義 【予習】実習のてびき（コピー）の熟読（30分）【復習】各種書類の確認（30分）	
3) 実習生の義務と心得 - 相談援助専門職が培っていくべき態度 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	
4) 実習生の義務と心得 - プライバシーの保護と守秘義務 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	
5) 記録 - 記録をする意味、より良い記録内容と記録方法 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	個人ワーク
6) 配属告知、個人票等の書類作成 - 実習計画および実習指導計画書作成の概説 【予習】各種書類の確認（30分）【復習】個人票の作成（90分）	個人ワーク
7) 実習計画および実習計画書作成 - 昨年度に現場実習を行った先輩方の実習体験を聴き、アドバイスを得る（質疑応答あり）（三輪、実習を経験した上級生）【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	個人ワーク 小レポート
8) 実習計画および実習計画書作成 - 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議、巡回指導の概説（三輪、実習指導者） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	個人ワーク
9) 実習計画および実習計画書作成 個別指導 【予習】個人票、実習計画書の作成（90分）【復習】個人票、実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
10) 実習計画および実習計画書作成 個別指導 【予習】個人票、実習計画書の作成（90分）【復習】個人票、実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
11) 実習計画および実習計画書作成 個別指導 【予習】実習計画書の作成（90分）【復習】実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
12) 実習計画および実習計画書作成 個別指導 【予習】実習計画書の作成（90分）【復習】実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
13) 実習計画および実習計画書作成 個別指導 【予習】実習計画書の作成（90分）【復習】実習計画書の修正（90分）	個人ワーク
14) 実習スーパービジョンの概説 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】授業内容の振り返り（30分）	
15) 現場実習指導者によるパネルディスカッション - 求められる社会福祉実習生像（現場実習指導者との懇談）（三輪、特別講師） 【予習】事前配布資料の熟読（30分）【復習】小レポートの作成（30分）	グループワーク 小レポート
授業外学習	
実習の個人票、実習計画書については、各自、授業外時間に作成すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	社会福祉援助技術現場実習指導・・・、 社会福祉援助技術現場実習 すべての社会福祉実習に必要な科目

課題に対するフィードバック

小レポートには、コメントを付して次回返却する。ただし、15)は日時を設定して返却する。

備考

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	三輪 直之	関連する資格	社会福祉士受験資格	

授業概要

この授業は、対面で実施する。
 本科目は「社会福祉援助技術現場実習」の事後指導とまとめにあたる。現場実習で学んだ「社会福祉援助技術現場実習」で取り上げた実習テーマ、社会福祉現場の実情、利用者の置かれている状況、相談援助専門職の業務内容、利用者への相談援助の姿勢・態度、相談援助の基盤となる倫理・価値・援助観などを、実習記録や実習体験を踏まえて深化させ、自己が抱える専門的な課題や自分自身の固有の課題を明確化し、「社会福祉援助技術現場実習」の総まとめを行う。実習報告書の作成と実習報告会での実習報告を行う。
 この授業は、教員（三輪）の社会福祉現場での実務経験をもとに、実習の振り返りに関する授業を展開する。

到達目標

A3415c
 参加した現場実習を振り返ることで、自己覚知を行う。
 参加した現場実習を振り返ることで、改めて社会福祉施設・機関の役割、相談援助専門職の役割・心構え、相談援助の知識・技術を理解する。
 記録の仕方、プレゼンテーションの方法を学び、相手を意識した読み易い実習報告書の作成と分かりやすい実習報告を行う。

成績評価方法

実習報告書、プレゼンテーション、個別学習、グループ学習による総合評価を行う。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							40
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実習の振り返り（個人別振り返りシートの作成） 【復習】個人別振り返りシートの作成（90分）	個人ワーク
2) 実習の振り返り（個人別振り返りシートの作成、発表準備） 【予習】個人別振り返りシートの作成（90分）【復習】個人別振り返りシートの修正（90分）	個人ワーク
3) 実習報告 個人による実習報告と討論 【予習】報告準備（60分）	プレゼンテーション グループワーク
4) 実習の振り返り（実習先種別振り返りシートの作成） 【予習】実習先種別振り返りシートの作成（90分）【復習】実習先種別振り返りシートの修正（90分）	グループワーク
5) 実習の振り返り（実習先種別振り返りシートの作成）と実習報告 - 実習報告会(実習の評価全体総括会)に向けてのプレ報告会 - 【予習】報告準備（60分）	プレゼンテーション
6) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】プレゼン案の作成（90分）【復習】プレゼン案の修正（90分）	個人ワーク グループワーク
7) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】プレゼン案の修正（90分）【復習】プレゼン案の修正（90分）	個人ワーク グループワーク
8) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】スライドの作成（90分）【復習】スライドの修正（90分）	個人ワーク グループワーク
9) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】スライドの修正（90分）【復習】スライドの修正（90分）	個人ワーク グループワーク
10) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】実習報告書の作成（120分）【復習】実習報告書の修正（90分）	個人ワーク グループワーク
11) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】実習報告書の修正（90分）【復習】実習報告書の修正（90分）	個人ワーク グループワーク
12) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】実習報告書の修正（90分）【復習】実習報告書の清書（90分）	個人ワーク グループワーク
13) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】スライドの修正（90分）【復習】スライドの修正（90分）	個人ワーク グループワーク
14) 実習報告書の作成指導、実習報告会に向けてのプレゼンテーションの取り組み 個別・グループワーク 【予習】スライドの修正（90分）【復習】報告練習（90分）	個人ワーク グループワーク
15) 実習報告会(実習の評価全体総括会) 【予習】報告練習（90分）	プレゼンテーション
授業外学習	
実習報告書の作成および実習報告会の準備については、授業外時間も活用して行うこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 社会福祉援助技術現場実習の手引き（本学刊） 参考書 厚生統計協会『国民の福祉と介護の動向』（最新版）	社会福祉援助技術現場実習指導・・・、 社会福祉援助技術現場実習 すべての社会福祉実習に必要な科目

課題に対するフィードバック

実習報告書および実習報告会のスライドについては、毎回、作成内容を確認しつつ指導する。

備考

科目名	社会福祉援助技術現場実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	4	3年	後期			
担当者名	三輪 直之		関連する資格	社会福祉士受験資格			
授業概要 この授業は、実習施設・事業所等において実施する。 本科目は社会福祉専門職養成に向けての実習科目である。 社会福祉士及び介護福祉士法に規定される施設・事業者・機関・団体等（以下施設等）で180時間以上の実習を行う。 実習期間が長期にわたるので、実習生は実習テーマを持って実習に臨む。また、実習前指導の科目である、社会福祉援助技術現場実習指導・・・を修了していること等を履修要件とする。 この授業は、教員（三輪）の社会福祉現場での実務経験と、実習指導者の実務経験と実習指導者講習会の受講経験をもとに、実習を遂行する。							
到達目標 A3416c 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ 実際に理解し実践的な技術等を体得する。 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 実習における体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化、理論化し、体系だてることができるようになる。			成績評価方法 実習施設等による評価、実習日誌、実習施設で求められた課題、実習事後総括などによる総合評価を行う。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>（三輪、実習指導者） 1)～15) 原則夏季休暇中に、本学が指定する施設等において23日以上、総時間数180時間以上の実習を行う。なお、複数の施設等において実習を行う事も可能であるが、その場合、そのうちの1施設等の実習時間が120時間を越えることを要件とする。</p> <p>学生は、実習中実習指導者および教員の連携のもと、次に掲げる事項についての指導を得るものとする。</p> <p>利用者やその関係者、施設等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成。</p> <p>利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成。</p> <p>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。</p> <p>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価。</p> <p>他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際。</p> <p>社会福祉士としての職業倫理、施設等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解。</p> <p>施設等の経営やサービスの管理運営の実際。</p> <p>当該実習先が地域社会の中の施設等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。</p> <p>実習に際して大学および担当教員により以下の事項を行う。</p> <p>実習に際して、必要な健康診断等を実施し、学生が良好な健康状態であることを確認する。</p> <p>実習先の決定に際して、事前に希望票の作成および個別面談を行い、実施および巡回指導可能な施設等を助案する。</p> <p>実習日誌等の記録物の記入方法については、社会福祉援助技術現場実習指導 において指導する。</p> <p>【予習】日々の実習目標を立てて実習に臨む（30分）1)～15) 【復習】日々の実習を振り返り、実習日誌を作成する（120分）1)～15) 実習終盤に総括票を作成する（120分）</p>	
授業外学習	
<p>日々の実習日誌の作成は実習時間外に行い、翌朝必ず実習指導者に提出すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 社会福祉援助技術現場実習の手引き（本学刊）他、実習先で作成される資料等を使用する。</p>	<p>社会福祉援助技術現場実習指導 . . .</p>

課題に対するフィードバック

実習の進捗状況の確認と指導が、実習指導者により毎日行われる。
教員による巡回指導が、週1回行われる。
実習の遂行状況により、帰校指導を行うことがある。

備考

科目名	医療ソーシャルワーク論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	堂本 祐三子		関連する資格				
授業概要 実践力あるソーシャルワーカーになるための知識と技術、価値に基づく、社会福祉の専門家としてのスタンスを習得する。医療ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を学び、医療ソーシャルワーク実践の在り方を考察する。 医療ソーシャルワーカーは様々な背景と困難をもつクライアントと向き合うが、ソーシャルワーカーにはその背景や困難を想像し、見抜く力量が求められる。その力を培うため、当講義では毎回現在の社会問題について問題意識や意見を発表する時間を確保する。 また担当教員は、現在医療現場での実務を実践しており、現場の実際なども織り交ぜて講義を行う。							
到達目標 ナンバリング(A3417m) ソーシャルワーカーの視点や立ち位置を明確にし、地域や医療のチームの中での役割を理解する。			成績評価方法 総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 健康の社会的決定要因(1) (予習)社会的な問題について考察する。(20分) (復習)テキストを復習(30分)	プレゼンテーション
2) 健康の社会的決定要因(2) (予習)社会的な問題について考察する。(20分) (復習)テキストを復習(30分)	プレゼンテーション
3) 健康の社会的決定要因(3) (予習)社会的な問題について考察する。(20分) (復習)テキストを復習(30分)	プレゼンテーション
4) 健康の社会的決定要因(4) (予習)社会的な問題について考察する。(20分) (復習)テキストを復習(30分)	プレゼンテーション
5) 健康の社会的決定要因(5) (予習)社会的な問題について考察する。(20分) (復習)テキストを復習(30分)	プレゼンテーション
6) 保険医療をめぐる諸問題(1) (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)まとめのプリント作成(10分)	プレゼンテーション
7) 保険医療をめぐる諸問題(2) (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)まとめのプリント作成(10分)	プレゼンテーション
8) 医療と福祉(1) (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)まとめのプリント作成(10分)	プレゼンテーション
9) 医療と福祉(2) (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)まとめのプリント作成(10分)	プレゼンテーション
10) 価値と倫理(1) (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)まとめのプリント作成[10分]	プレゼンテーション
11) 保健医療をめぐる社会保障(1) (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)まとめのプリント作成(10分)	プレゼンテーション
12) 保健医療をめぐる社会保障(2) (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)まとめのプリント作成(10分)	プレゼンテーション
13) 社会資源の活用 (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)まとめのプリント作成[10分]	プレゼンテーション
14) 医療ソーシャルワークの実際 (予習)社会的な問題について考察する(20分) (復習)これまで学んできたことについてレポート作成(60分)	プレゼンテーション
15) 医療ソーシャルワーク論のまとめ - 総括 -	プレゼンテーション グループワーク
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
マイケルモーマット健康格差 不平等な世界への挑戦 日本評論社	社会福祉士国家試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

レポートはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	スクールソーシャルワーク論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	岩金 俊充		関連する資格	宇部フロンティア大学 スクールソーシャルワーカー教育課程修了認定証			
授業概要 現代の学校現場は、不登校、いじめ、非行などの問題行動や保護者とのトラブル等を抱え、一方、家庭では、貧困、虐待、家庭内暴力、DV、地域社会からの孤立等を抱えている。これら多様化・複雑化・高度化した問題は、子どもの健全な成長を妨げ、子どもの未来や可能性を失わせる大きな要因となっている。 本講義では、具体的実践事例を踏まえて、学校現場や家庭における子どもたちの現状や問題を把握し、スクールソーシャルワーカーとしてどのような価値観と具体的支援技術をもってすれば、子どもの最善の利益と生活の質の向上が実現できるのかについて学ぶ。 授業は、「Google Classroom」を活用し、オンデマンド型の遠隔授業で実施する。 PowerPointによるスライドや各種学習資料の配信を基に、課題提示から締め切りまでの間（基本的に1週間）に、課題を提示することにより出席とし、提出課題を総合的に評価する。 中学校教員、知的障害者施設での支援員、スクールソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカースーパーバイザーとしての実務経験をもとに、スクールソーシャルワークの価値と理論、具体的支援についての授業を行う。							
到達目標 ナンバリング(A3418sr) 1. スクールソーシャルワークの歴史・動向、理論を理解する。 2. スクールソーシャルワークの意義と役割を説明できる。 3. スクールソーシャルワーカーと教職員、他の専門職との連携について説明できる。 4. スクールソーシャルワーカーが、多問題を抱える家庭へどのような価値とスキルを持って支援していくかを理解する。 5.ペアレントトレーニングの技法を学ぶことで、課題を抱える子どもや保護者に対して、どのような「言葉がけ」「ほめ方」「叱り方」「接し方」が効果的であるかを知る。 6. 現在の子どもの取り囲む環境への問題意識を持ち、自分なりの考えを述べるができるようになる。 7. 困難を抱える子ども・家庭にういて、ソーシャルワークの視点から具体的な支援策を示すことができるようになる。			成績評価方法 「Google Classroom」により学習資料と課題を提示する。 提示から締め切りまでの間（基本的に1週間）に、課題を返却することにより出席とする。締め切り日を過ぎた場合は欠席とする。ただし、事前に許可を願い出て認められた場合は除く。 採点後の再提出は認めない。ただし、講師側から再提出の指示があった場合は、示した期日までに再提出すること。期日までに再提出がなされなければ欠席とする。 提出された課題を総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							0
小テスト、授業内レポート	○			○			50
宿題、授業外レポート	○			○			50
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) スクールソーシャルワーカーの実際 【予習】テキスト「第1章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	
2) スクールソーシャルワーカーの価値・歴史・定義 【予習】テキスト「第1章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	
3) スクールソーシャルワーカー活用事業【学校組織・校務分掌・特別支援教育・教育委員会制度】 【予習】テキスト「第2章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	
4) スクールソーシャルワークと環境の相互作用【エコマップ・事例問題】 【予習】テキスト「第3章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
5) スクールソーシャルワークの相談援助技術【マクロ・メゾ・ミクロ、バッドサイクル・事例問題】 【予習】テキスト「第4章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
6) スクールソーシャルワークの相談援助技術【具体的支援策・事例問題・修復的アプローチ】 【予習】テキスト「第5章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
7) スクールソーシャルワークの相談援助技術【事業評価・SV】 【予習】テキスト「第6章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
8) 子ども支援に関わる専門職との連携【教育・心理・行政・施設・司法・他】 【ひきこもり・ネット、ゲーム依存】 【予習】テキスト「第7章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
9) スクールソーシャルワークに関わる法律・制度と諸問題・権利擁護、倫理【児童福祉法、児童虐待防止法等】 【予習】テキスト「第10章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
10) スクールソーシャルワークの具体的実践【発達障害・合理的配慮】 【予習】テキスト「第11章」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
11) スクールソーシャルワークの具体的実践【非行問題】 【予習】テキスト「第5章第2節5」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
12) スクールソーシャルワークの具体的実践【学校と保護者間のトラブル、保護者連携】 【予習】「クレイマー、モンスターペアレント」について調べる（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で最適な支援方法を調べて解答する。
13) スクールソーシャルワークの具体的実践【いじめ問題・修復的対話・いじめ対策法及びガイドライン】 【予習】「いじめ」「非行」「ひきこもり」について調べる（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：課題について、学生自らが文献等で、必要性や最適な活用方法を調べて解答する。
14) スクールソーシャルワークの具体的実践【ペアレント・トレーニング】 【予習】「ペアレントトレーニング」について調べる（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：「声掛け場面」について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
15) スクールソーシャルワーク・事例から考察・演習【事例問題】 【予習】テキスト「第5章2節4」を読んでおく（60分） 【復習】配布資料を読み、考察を書いて提出（30分）	探求学習：事例について、学生自らが課題や最適な支援方法を調べて解答する。
授業外学習	
子どもの問題に関連する複数の新聞記事から、自らの考えをまとめ、その支援方法について考察し提出します。 講義資料とテキストで学習し、関係する情報や資料を集め、取り組んでください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
『スクールソーシャルワーク実践技術』北大路書房 毎回、関連資料を配布する。	社会福祉士国家試験受験資格に関する科目、 精神保健福祉士国家試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

提出された課題に、コメントと評価を付けて返却します。
他の学生の参考になるものについては、学生本人の許可が得られれば、GoogleClassroomにて共有します。

備考

学習意欲や、課題への取り組み態度を重視します。
福祉的視点のない記述や、社会人として通用しない表現等は不可、もしくは再提出とします。
課題の締め切り厳守です。

科目名	医療福祉実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	4年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

医療ソーシャルワーク分野の実習として、一般総合病院・リハビリテーション病院などの現場における利用者や実習指導者との関わりのなかで、医療ソーシャルワーカーとしての視点や価値、ソーシャルワークについて学習することを目的としている。

到達目標

ナンバリング(A4401m)

- ・医療ソーシャルワーカーとしての視点や価値を理解する。
- ・医療現場におけるソーシャルワークを理解する。
- ・医療ソーシャルワーカーの全体像を理解する。

成績評価方法

レポート及び演習、医療福祉実習の評価などで総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							90

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
授業外学習	
<p>実習事前の準備として、医療機関における利用者、病のプロセスとソーシャルワーカーの役割、医療機関の現場について学習しておいてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜、指示する。	医療ソーシャルワーク論、 社会福祉士国家試験受験資格に関する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本授業は、原則として遠隔で実施する。ただし、月1回は対面で実施する。
 本授業では、精神保健福祉士としての基本的な姿勢を身につけるために、相談援助活動の基盤となる理念や倫理、専門職としての役割などについて学ぶとともに、権利擁護の意義と実際について理解する。さらには、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

精神科ソーシャルワーカーや社会福祉士としての実務経験をもとに、精神保健福祉士が行う相談援助活動の基盤について授業を行う。

到達目標

- A3419d
- ・精神保健福祉士が行う相談援助の基本的考え方（対象、定義、価値と理念など）を説明できる。
 - ・精神保健福祉領域で働く専門職とその役割について説明できる。
 - ・権利擁護の意義と方法について説明できる。
 - ・精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携について説明できる。

成績評価方法

レポートの内容で理解度を評価する。
 なお、授業中の積極的な質問も評価にあたって加味する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							80	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神保健福祉士制度化の歩み 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
2) 精神保健福祉士と社会福祉士 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
3) 相談援助の基本的考え方（1） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
4) 相談援助の基本的考え方（2） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
5) 面接・訪問記録の意義と方法 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
6) 相談援助の価値と理念（1） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
7) 相談援助の価値と理念（2） 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
8) 相談援助の形成過程 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
9) 精神保健福祉分野における相談援助 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
10) 精神保健福祉分野における専門職 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
11) 精神障害者の相談援助における権利擁護 【予習】権利擁護にかかわる出来事を調べておく（60分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
12) 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
13) 専門職としての倫理 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
14) 総合的かつ包括的な援助の意義と概要 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分） 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
15) 多職種連携の意義と精神保健福祉士の役割 【予習】テキストの該当ページを読んでおく230分） 【復習】全体を振り返り、理解不十分な箇所を確認しておく（60分）	レポート
授業外学習	
<p>予習は、テキストの該当ページに目を通しておくこと。その際、気になったキーワードについて調べたり、質問内容を考えておくことが望ましい。</p> <p>復習は、教員が示すテーマについて、期限までにレポートを作成し提出すること。レポートはA4で1枚（12ポイント40行程度）にまとめること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉相談援助の基盤』中央法規</p>	<p>相談援助総論 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 . . . 精神保健福祉援助演習 . . . 精神保健福祉援助実習 . . .</p>

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは、教員がコメントを付して返却する。

備考

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	赤瀬 洋介		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 本講義では、精神保健福祉学の理論を背景にした具体的な援助に関する方法論を学ぶ。 特に、精神障害者のおかれている社会的状況をはじめ、人間のこころの理解や援助の視点、精神保健福祉士という専門職として業務遂行にかかわる基礎知識の習得を目ざす。授業は、Google Classroomを活用した遠隔授業で実施する。							
到達目標 ナンバリング(A3420d) ・精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について理解する。 ・精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。			成績評価方法 課題の提出状況、提出内容、また総括のミニレポートにより、総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							75
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 相談援助活動の内容と方法 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
2) 個別支援の実際と事例分析 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
3) 集団を活用した支援の実際と事例分析 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
4) 事例による相談援助活動の検討 「危機介入」 「居住支援」 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
5) 事例による相談援助活動の検討 「就労支援」 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
6) 事例による相談援助活動の検討 「権利擁護」 「医療観察法に基づく支援」 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
7) 精神保健福祉における精神障害者と家族の関係 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
8) 家族支援の方法 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
9) 事例による家族調整・支援の検討 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
10) 地域移行支援の対象と地域移行の体制 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
11) 精神保健福祉士の役割と多職種との連携 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
12) 精神科入院患者の地域移行支援・地域定着支援 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
13) 地域移行にかかわる機関と組織 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
14) 事例による地域移行支援の検討 【予習】教科書の該当部分を熟読しておくこと（30分）	課題
15) 総括 【予習】これまでとったノートを見返しておくこと（30分）	小レポート
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規 参考図書：適時紹介する。	精神保健福祉に関する制度とサービス 精神疾患とその治療、精神保健学 臨床心理学

課題に対するフィードバック

小レポートはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	後期			
担当者名	赤瀬 洋介		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 本講義では、精神保健福祉学の理論を背景とした具体的な援助に関する方法論を学ぶ。 現在実施されている精神障害者に対する支援体系を理解するとともに、精神障害者援助にかかわる諸技術の習得をめざす。授業は、Google Classroomを活用した遠隔授業で実施する。							
到達目標 ナンバリング(A3421d) ・地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用およびケアマネジメント、コミュニティワークの実際について理解する。 ・地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について理解する。			成績評価方法 課題の提出状況、提出内容、また総括のミニレポートにより、総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							75
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 地域を基盤にした相談援助の主体と対象 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
2) 事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討 「相談支援事業における展開」「居住支援」 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
3) 事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討 「雇用・就労支援の総合的展開」「災害時の支援」 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
4) 地域ネットワークとアウトリーチ 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
5) 地域生活支援と訪問援助 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
6) セルフヘルプグループおよび家族会、ボランティアの育成と活用 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
7) 精神障害者のケアマネジメント 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
8) 精神障害者のケアマネジメント 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
9) 事例による精神障害者ケアマネジメントの検討 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
10) 地域を基盤にした支援とネットワークング 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
11) 地域を基盤にした支援とネットワークング 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
12) 事例による地域を基盤にした支援の検討 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
13) 包括的な支援の意義と展開 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
14) 事例による地域生活を支援する包括的な取組みの検討 【予習】教科書の該当する部分を熟読しておくこと（30分）	課題
15) 総括 【予習】これまでとったノートを見返しておくこと（30分）	小レポート
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規 参考図書：適時紹介する。	精神保健福祉に関する制度とサービス 精神疾患とその治療、精神保健学 臨床心理学

課題に対するフィードバック

小レポートはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	山本 悟	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

精神科医療については入院中心のケアから地域ケアへの流れとなり、障害者総合支援法上では、他障害と同様のサービスが受けられるようになった。こうした社会変革を受けて、精神障害を持った人々が、地域で継続して安心して生活を営むことができるように、リハビリテーションの具体的役割と意義について、病院での作業療法実践及び地域での精神保健福祉士としての実務経験を基に実例を通して学び、またその課題について考える。

到達目標

ナンバリング(A3422d)

- ・精神科リハビリテーションの概念を理解し、課題について考察する。
- ・精神科リハビリテーションの対象や方法について説明できる。

成績評価方法

対面授業を行う場合は出席状況及び定期試験にて成績評価する。新型コロナウイルスの状況次第ではリモートでの授業を行う。その際は、レポート提出にて出席とし、レポート内容及び提出状況、試験の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	・精神科リハビリテーションの概念 (1)リハビリテーションの歴史	
2)	(2)リハビリテーションの理念、意義と基本原則 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
3)	(3)精神科リハビリテーションの概念 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
4)	(4)精神科リハビリテーションの理念と意義 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
5)	(5)精神科リハビリテーションの基本原則と技法 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
6)	・精神科リハビリテーションの構成 (1)精神科リハビリテーションの対象 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
7)	(2)精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
8)	(3)精神科リハビリテーションに関わる専門職との連携 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
9)	(4)精神科リハビリテーションの施設 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
10)	(5)精神科リハビリテーションの関連領域 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
11)	・精神科リハビリテーションのプロセス (1)リハビリテーション計画 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
12)	(2)リハビリテーション評価 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
13)	(3)アプローチの方法 ~医療機関~ 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
14)	(4)アプローチの方法 ~施設、地域~ 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
15)	ライフサイクルと精神科リハビリテーション 【予習】無し【復習】本を読み返す(30分)	
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規		精神保健福祉の理論と相談援助の展開・・・ 精神保健福祉援助実習指導・・・ 精神保健福祉援助実習・・・

課題に対するフィードバック

リモート授業の場合は、レポートを提出した時は必ずコメントを付けて返す。

備考

新型コロナウイルスの状況次第ではリモート授業を行う。その場合はレポート提出にて出席とする。レポート内容により評価し、提出ない場合は減点とする。

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	4年	前期			
担当者名	山本 悟		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 本講義は、リハビリテーションの技法（SST、家族教育プログラム等）やリハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割と関連専門職との連携について学び、実践上の必要事項をより明確なものとし、臨床実地に役立てることを目標とする。特に、精神科リハビリテーションが医療機関・施設・地域で展開されている中で、病院での作業療法実践と地域での精神保健福祉士としての実務経験を基に、精神保健福祉士に求められる役割や視点について学ぶ。							
到達目標 ナンバリング(A4402d) ・精神保健福祉士の現場に対する認識と理解を深め、精神保健福祉士ないし関連職に就職する場合の実際的な諸問題から研修する。 ・精神障害者が地域で安定した生活が送れるよう、役立つすべての関連知識を吸収する。			成績評価方法 対面授業を行う場合は出席状況及び定期試験にて成績評価する。新型コロナウイルスの状況次第ではリモートでの授業を行う。その際はレポート提出にて出席とし、レポート内容及び提出状況、試験の操業評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	・医療機関におけるリハビリテーション (1) 作業療法及びレクリエーション療法	
2)	(2) 集団精神療法 【復習】本を読み返す（30分）	
3)	(3) 行動療法 【復習】本を読み返す（30分）	
4)	(4) 認知行動療法と社会技能訓練 【復習】本を読み返す（30分）	
5)	(5) 家族教育プログラム 【復習】本を読み返す（30分）	
6)	(6) デイケア及びナイトケア 【復習】本を読み返す（30分）	
7)	(7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護 【復習】本を読み返す（30分）	
8)	(8) 退院・地域移行支援	
9)	・精神保健福祉士が行うリハビリテーション (1) 集団精神療法、SST、デイケア・ナイトケア、訪問看護、リワーク支援 【復習】本を読み返す（30分）	
10)	(2) 地域ネットワーク、ケアマネジメント、自助グループ、家族会、ボランティア養成	
11)	・精神科リハビリテーションの統合化 (1) 地域リハビリテーション 【復習】本を読み返す（30分）	
12)	(2) 職業リハビリテーション 【復習】本を読み返す（30分）	
13)	・精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション (1) 精神保健福祉法、障害者基本法 【復習】本を読み返す（30分）	
14)	(2) 障害者プラン、障害者総合支援法 【復習】本を読み返す（30分）	
15)	まとめ	
授業外学習		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト：（予定） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』中央法規		精神保健福祉の理論と相談援助の展開・・・ 精神保健福祉援助実習指導・・・ 精神保健福祉援助実習・・・

課題に対するフィードバック

リモート授業の場合は、レポートを提出した時は必ずコメントを付けて返す。

備考

新型コロナウイルスの状況次第ではリモート授業を行う。その場合はレポート提出にて出席とする。レポート内容により評価し、提出ない場合は減点とする。

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	4	3年	前期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本授業は、基本的に対面授業で実施する。
 本授業では、精神障害者に対する相談援助活動をする際に必要となる制度やサービスを理解するために、根拠となる精神保健福祉法、障害者総合支援法の内容を学ぶとともに、関連する更生保護制度や医療観察法における精神保健福祉士の役割、社会調査の基礎的な知識などを習得する。

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、精神保健福祉に関する制度や諸活動、精神保健福祉士の役割について授業を行う。

到達目標

A3423d

- ・精神障害者の支援に関連する制度、福祉サービスについて説明できる
- ・精神障害者の支援にかかわる関係機関、施設、団体について説明できる
- ・更生保護制度と医療観察法における精神保健福祉士の役割について説明できる
- ・社会資源の開発にかかわる社会調査の概要と活用について説明できる

成績評価方法

定期試験及びレポート内容で理解度を評価する。
 なお、授業中の積極的な質問も評価にあたって加味する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					40
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 最初に - この科目の概要と他の科目との関連について	
2) 最初に - 精神障害者に関する制度とサービスの枠組み 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
3) 精神保健福祉法（１） - 精神病患者監護法から精神衛生法へ 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
4) 精神保健福祉法（２） - 精神衛生法から精神保健法を経て精神保健福祉法へ 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
5) 精神保健福祉法（３） - 法成立の意義とその後の変遷 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
6) 精神保健福祉法（４） - 目的および対象 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
7) 精神保健福祉法（５） - 医療および保護、保健および福祉 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
8) 精神保健福祉法（６） - 精神保健福祉士の役割 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
9) 精神保健福祉の動向 【予習】テキストの該当ページを読むとともに、近年の精神保健福祉にかかわる出来事を調べる（60分）	
10) 精神保健福祉にかかわる出来事 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（30分）	レポート
11) 障害者総合支援法（１） - 法成立の背景、障害者基本法との関わり 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
12) 障害者総合支援法（２） - 福祉サービスの概要 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
13) 障害者総合支援法（３） - 福祉サービスの概要 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
14) 障害者総合支援法（４） - 国、都道府県、市町村の制度や事業 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
15) 障害者総合支援法（５） - 個別施策 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
16) 障害者総合支援法（６） - 動向 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
17) 精神障害者に関連する社会保障制度（１） - 医療保険制度の意義と内容 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
18) 精神障害者に関連する社会保障制度（２） - 医療保険制度の意義と内容 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
19) 精神障害者に関連する社会保障制度（３） - 介護保険制度の意義と内容 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
20) 精神障害者に関連する社会保障制度（４） - 経済的支援に関する制度 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート

21)	精神障害者の支援にかかわる社会資源（１） - 行政組織と民間組織 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
22)	精神障害者の支援にかかわる社会資源（２） - インフォーマルサポート 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
23)	更生保護制度と精神保健福祉士（１） - 更生保護制度とその担い手 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
24)	更生保護制度と精神保健福祉士（２） - 司法・医療・福祉の連携 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
25)	医療観察法と精神保健福祉士（１） - 医療観察法の概要 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（20分）	
26)	医療観察法と精神保健福祉士（２） - 社会復帰調整官、精神保健参与員の役割 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
27)	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査（１） - 社会調査の意義と方法 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分）	
28)	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査（２） - 社会調査における倫理 【復習】教員が示すテーマについてレポートを作成する（60分）	レポート
29)	総括 - 専門職との連携	
30)	総括 - 地域住民との協働	

授業外学習

予習は、テキストの該当ページに目を通しておくこと。その際、気になったキーワードについて調べたり、質問内容を考えたりしておくことが望ましい。
復習は、教員が示すテーマについて期限までにレポートを作成し提出すること。レポートはA4で1枚（12ポイント40行程度）にまとめること。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規 参考図書は、精神障害者の生活支援システムと同様とする。	精神障害者の生活支援システム 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 精神保健福祉援助実習指導・・・ 精神保健福祉援助実習・・・

課題に対するフィードバック

提出されたレポートは、教員がコメントを付して返却する。

備考

科目名	精神保健福祉援助演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	3年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 本授業は、対面で実施する。 本授業では、精神保健福祉士に求められる援助技術を身につけるために、他の講義科目と関連させながら、グループワークや事例研究などによってその基礎的な内容を学ぶ。また、この授業での学びを実習において実践することをめざす。 精神科ソーシャルワーカー、社会福祉士としての実務経験をもとに、実践的な能力の習得をめざして演習を行う。							
到達目標 A3424d ・自己理解を深める。 ・基本的な対人援助技術を習得する。 ・記録の技術を習得する。 ・課題の発見、分析、解決の技術を習得する。 ・集団援助技術を習得する。			成績評価方法 各回の内容理解度やグループワークへの参加度によって評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○						10
授業態度・授業参加度							50
プレゼンテーション							
グループワーク							40
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション及び自己理解 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
2) 自己理解と自己開示 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
3) 利用者理解 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
4) 援助関係の形成 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
5) 援助関係の形成 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
6) コミュニケーション技術 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
7) 記録の必要性とその方法 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
8) 記録の必要性とその方法 【予習】プロセス・レコードを作成する（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	個別ワーク、グループワーク
9) 個人に対する相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
10) 個人に対する相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
11) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
12) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
13) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】教員が示す事例を読んでおく（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク（事例研究）
14) 集団援助技術の実際 - 生活技能訓練 【予習】SSTについて調べる（30分） 【復習】事例研究の内容を整理する（30分）	グループワーク
15) 集団援助技術の実際 - 生活技能訓練 【予習】指示する課題について準備する（30分） 【復習】15回の授業内容を振り返る（60分）	グループワーク
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規	相談援助総論 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉援助実習指導 精神保健福祉援助実習

課題に対するフィードバック

復習の課題については、翌週授業の冒頭に確認し担当教員が口頭でコメントする。また、必要に応じて受講者全員で共有する。

備考

科目名	精神保健福祉援助演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	4年	前期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 本授業は、対面で実施する。 本授業では、配属実習（障害福祉サービス事業所等）での体験を振り返り、明らかになった課題を克服するとともに、精神保健福祉士に求められる援助技術を高めるために、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ）や事例研究を行う。さらには、そうした技術を専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 精神科ソーシャルワーカー、社会福祉士の実務経験をもとに、実践的な能力の習得をめざし演習を行う。							
到達目標 A4403d ・配属実習先での体験を振り返り、援助関係の形成過程や個別支援計画の作成過程について自らの課題を説明できる。 ・精神障害者の生活のしづらさを具体的に説明できる。 ・事例研究を通して相談援助（特にアセスメント）の過程を理解する。 ・次回実習にむけて必要となる個別援助技術、集団援助技術を習得する。			成績評価方法 各回の内容理解度やグループワークへの参加度によって評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実習 の振り返り - 援助関係の形成過程・当事者の生活のしづらさなど 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	グループワーク
2) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
3) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
4) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
5) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
6) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
7) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（60分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
8) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
9) ケアマネジメントの過程 - アセスメントスキル 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
10) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
11) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
12) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
13) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
14) 実践モデル及びアプローチ別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（30分） 【復習】教員が示す課題に取り組む（30分）	プレゼンテーション グループワーク
15) チームアプローチの理解 【予習】テキストの該当ページを読んでおく（30分）	プレゼンテーション グループワーク
授業外学習	
予習は、教員が指示するテキストの該当ページあるいは資料を呼んでおくこと。 復習は、教員が示した課題について翌週の授業で発表できるよう準備をしておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規 大谷京子・田中和彦著『失敗ポイントから学ぶ P S W のソーシャルワークアセスメントスキル』中央法規	相談援助総論 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉援助実習指導 ・ 精神保健福祉援助実習 ・

課題に対するフィードバック

授業で示した課題については、翌週の授業で発表することとし、それに対し担当教員がコメントする。

備考

科目名	精神保健福祉援助演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	4年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 本授業は、対面で実施する 本授業では、精神保健福祉分野における専門的かつ実践的な援助技術を身につけるために、配属実習での体験や関連科目の学びと照らし合わせながら、様々な支援課題をもつ事例の研究を行う。 精神科ソーシャルワーカー、社会福祉士としての実務経験をもとに、実践的な能力の向上をめざした演習を行う。							
到達目標 A4406d ・実習での個別的な体験を専門的な知識・技術と関連づけて説明できる。 ・事例研究を通じてさまざまな支援課題を理解するとともに、相談援助技術について実践できる。			成績評価方法 各回の内容理解度、グループワークへの参加度、レポートの内容によって総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					30
授業態度・授業参加度	○			○			40
プレゼンテーション							
グループワーク		○					30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を専門的技術と関連づけ、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）	グループワーク
2) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を専門的技術と関連づけ、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）	グループワーク
3) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を専門的技術と関連づけ、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）	グループワーク
4) 実習での体験と専門的知識・技術 【予習】実習での体験を専門的技術と関連づけ、説明できるよう準備する（60分） 【復習】議論となった専門的知識・技術についてテキスト等で確認する（30分）	グループワーク
5) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
6) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
7) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
8) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
9) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
10) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
11) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
12) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
13) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
14) 支援課題別の相談援助の理解 【予習】指示した事例を読んでおく（20分） 【復習】事例研究の内容を整理し、レポートを作成する（30分）	グループワーク レポート
15) まとめ - 精神保健福祉士としてのアイデンティティ	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
事例研究の内容を整理するというレポートでは、グループワークの中で話題となったことを列挙するとともに、気づきや疑問点を記述すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規	相談援助総論 精神保健福祉相談援助の基盤 精神保健福祉援助実習指導 精神保健福祉援助実習

課題に対するフィードバック

レポートについては、翌週授業の冒頭で確認し、担当教員がコメントを加え、受講生全員で共有する。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	3年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本授業は、対面で実施する。
 本授業は、配属実習の「事前指導」として実施するものであり、配属実習を有意義なものとするために、講義科目や演習科目の学習内容と関連づけ、実習目的や実習先である障害福祉サービス事業所・精神科病院について理解するとともに、実習生としての基本的な姿勢を身につける。

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習の事前指導を行う。

到達目標

- A3425d
- ・精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
 - ・自らにとっての精神保健福祉援助実習の目的、課題を明確にする。
 - ・実習先となる障害福祉サービス事業所等の事業類型や当該事業所の概要について説明できる。
 - ・実習生としての基本的な姿勢を身につける。

成績評価方法

授業参加度および内容理解度の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							50
プレゼンテーション							
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）		アクティブラーニング
1) 実習の意義と目的 2) 4年生の実習経験談 2) 実習における学習課題 3) 実習における基本姿勢 4) 実習施設・機関の理解（精神科医療機関） 5) 実習機関・機関の理解（障害者福祉サービス事業所） 6) 現場で働く精神保健福祉士の講話 7) 社会資源の理解 8) 記録の作成 9) 記録の作成 10) 実習計画書の作成（実習目的・課題の設定） 11) 実習計画書の作成（実習目的・課題の設定） 12) 事前訪問の目的・方法・内容 13) 職業倫理の遵守と法的責任 14) 事故や問題発生時の対応 15) 実習のミニ報告会 【予習】テキストの該当ページや担当教員が配付した資料を読んでおく。（各回20分） 【復習】教員の指示した課題に取り組む。（各回30分）	グループワーク	
授業外学習		
次回学習内容について、教員が指示したテキストの該当ページや配付資料を読んでおくこと。授業内容や参考資料をもとに、実習計画書を作成していくことになるが、計画書の作成にあたっては適宜個別に指導を受けること。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規、 社会福祉援助技術現場実習のテキストも参考にすること。また、そのほかの参考図書も授業の中で紹介する。	精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習 ・ ・	

課題に対するフィードバック

課題についての成果物は、翌週の授業において受講者全員で共有したのち、担当教員がコメントする。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	4年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

本授業は、対面で実施する。
 本授業は、配属実習の「事後指導」として実施するものであり、実習で体験したことを実践的な援助技術として体得するために、実習内容を振り返り、達成できたこと、課題として残ったことを明らかにしていくとともに、講義科目や演習科目の学習内容と関連づけながら専門的援助技術として体系立てて理解する。

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習の事後指導を行う。

到達目標

- A4405d
- ・精神障害者の生活上の困難や多職種連携について説明できる。
 - ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理などについて気づくことができる。
 - ・精神保健福祉援助に係る知識・技術について配属実習での体験と関連づけ、具体的に説明できる。

成績評価方法

授業参加度と内容理解度の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							40
プレゼンテーション							30
グループワーク							30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>この授業は基本的に対面授業で行うが、内容によっては遠隔授業にすることもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の振り返り（援助関係の形成過程についての自己評価） 2) 実習の振り返り（相談援助の実践についての自己評価） 3) 実習の振り返り（相談援助の実践についての自己評価） 4) 実習の振り返り（精神保健福祉士の職務理解についての自己評価） 5) 実習の振り返り（チームアプローチ、他機関連携の理解についての自己評価） 6) 実習の振り返り（実習課題達成度についての自己評価） 7) 実習の振り返り（課題として残ったことの確認） 8) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 9) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 10) 報告会準備（プレゼンテーション資料の作成） 11) 報告会準備（報告会リハーサル） 12) 実習報告会 13) 実習報告書の作成 14) 実習報告書の作成 15) 実習報告書の作成 <p>【予習】次回授業の課題についてレポートを作成する（60分）</p> <p>【復習】授業中指摘されたことを踏まえレポートを修正する（30分）</p>	<p>グループワーク プレゼンテーション レポート</p>
授業外学習	
<p>実習中に作成した実習日誌や実習指導者の助言をレポートに反映させるべく読み込んでおくこと。 その一方で、精神保健福祉士としての基礎的な知識や技術を復習すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習 ・ ・</p>

課題に対するフィードバック

授業の中で、適宜口頭によりフィードバックする。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	3年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

精神保健福祉援助実習では、精神保健福祉士としての自覚や職業倫理、専門的知識と技術を体得するために、実習先の実習指導者による指導を受けながら、精神科病院および障害福祉サービス事業所等において210時間以上の実習を行う。
 実習では、障害福祉サービス事業所等で「6日間概ね45時間程度」の実習を行い、主として利用者やその家族との援助関係構築の方法を学び、利用者の生活上の課題について理解する。

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習指導者と連携をとりながら実習を進める。

到達目標

A3426d

- ・利用者や実習先スタッフ、ボランティア等とコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を形成できる。
- ・利用者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。
- ・利用者や実習先スタッフとの関係の中で、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を習得し、自己に求められる課題に気づく。

成績評価方法

実習中（達成度、理解度等）及び巡回時の状況の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>本学が指定する障害福祉サービス事業所等において、6日間概ね45時間程度の実習を行い、次に掲げる項目をできる限り経験する。 ただし、新型コロナウイルスの影響のため事業所での実習ができなくなれば学内での演習に切り替える。</p> <p>利用者や実習先スタッフ、ボランティア等とのコミュニケーションを通じて、円滑な人間関係を築くとともに、自らの傾向や課題に気づく。</p> <p>利用者との援助関係を形成していくために、利用者の生活史や生活環境（人間関係を含む）に目を向け、障害からくる生活のしづらさに気づくとともに、ストレングスの視点から利用者理解ができるようになる。</p> <p>実習先においてスタッフの役割や支援のあり方を学び、精神保健福祉士としての業務と職業倫理を身につける。</p> <p>実習での日々の体験を実習日誌に記し、疑問点を積極的に実習指導者（精神保健福祉士）にたずね、大学での学習内容を実践力へと高める。</p> <p>【予習】実習開始までに、実習先の事業形態や事業内容等について調べておく（120分）</p> <p>【復習】実習指導者の指導内容（日誌へのコメント、口頭での助言など）を踏まえ、一日の振り返りをする（毎日60分）</p>	<p>フィールドワーク</p>
授業外学習	
<p>実習開始までに講義科目、演習科目、実習指導などで学んだ内容を復習しておく。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：精神保健福祉援助実習の手引き（本学精神保健福祉士養成課程担当教員作成） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること。</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習指導 ・</p>

課題に対するフィードバック

毎日、実習終了後、実習日誌を記入し、配属実習先の実習指導者の指導を受けることになる。

担当教員による巡回指導の際に、実習状況（課題達成度、理解度等）の振り返りを行う。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	3年	後期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	精神保健福祉士受験資格			
授業概要 精神保健福祉援助実習では、精神保健福祉士としての自覚や職業倫理、専門的知識と技術を体得するために、実習先の実習指導者による指導を受けながら、精神科病院および障害福祉サービス事業所等において210時間以上の実習を行う。 実習では、障害福祉サービス事業所で「12日間概ね90時間程度」の実習を行い、利用者との援助関係を構築しながら利用者の生活上の課題をストレングスの視点から理解し、個別支援計画の作成を試みる。また、総合的かつ包括的な地域生活支援の観点から実習先の事業所と関係機関等との連携についてその具体的な内容を理解する。 精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習指導者と連携をとりながら実習を進める。							
到達目標 A3427d ・利用者や実習先スタッフ、ボランティア等とコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を形成できる。 ・利用者の生活実態や生活上の課題を把握し、支援計画が作成できる。 ・チームアプローチの実際や、関連分野の専門職や他機関、団体等との連携について説明できる。 ・利用者や実習先スタッフとの関係の中で、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を習得し、自身の課題に気づく。			成績評価方法 実習（達成度、理解度等）及び帰校指導・巡回時の総合評価とする。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>本学が指定する障害福祉サービス事業所等において、12日間概ね90時間程度の実習を行い、次に掲げる事項をできる限り経験し、指導を受けるものとする。 ただし、新型コロナウイルスの影響のため事業所での実習ができなくなれば学内での演習に切り替える。</p> <p>利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、実習先スタッフ、ボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>利用者やその関係者との援助関係の形成</p> <p>利用者理解とその生活ニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>利用者やその関係者の権利擁護及び支援（エンパワメント含む。）とその評価</p> <p>医療・保健・福祉に係る多職種連携、チームアプローチの実際</p> <p>精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>施設・行政機関・関係団体等のサービスの管理運営や職員の就業などに関する規定への理解</p> <p>当該障害福祉サービス事業所が地域社会の中の社会資源であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>【予習】実習先の事業形態や事業内容、その地域の社会資源などについて調べておく。 実習 における自らの課題を確認する（120分）</p> <p>【復習】実習指導者の指導内容（日誌へのコメント、口頭での助言）を踏まえ、一日の振り返りをする（毎日60分）</p>	<p>フィールドワーク</p>
授業外学習	
<p>講義科目、演習科目などで学んだ内容を復習しておく。また、実習 での経験から浮き彫りになった課題を明確にして実習に臨むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：精神保健福祉援助実習の手引き（養成課程担当教員作成） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 精神保健福祉援助実習だけでなく、社会福祉援助技術現場実習のテキストや参考図書等も活用すること</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習指導 ・ ・</p>

課題に対するフィードバック

毎日、実習終了後、実習日誌を記入し、配属実習先の実習指導者の指導を受けることになる。

担当教員による巡回指導（週1回）や帰校指導の際に、実習状況（課題達成度、理解度等）の振り返りを行う。

備考

科目名	精神保健福祉援助実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	4年	後期
担当者名	蔵本 満敦	関連する資格	精神保健福祉士受験資格	

授業概要

精神保健福祉援助実習では、精神保健福祉士としての自覚や職業倫理、専門的知識と技術を体得するために、実習先の実習指導者による指導を受けながら、精神科病院および障害福祉サービス事業所等において210時間以上の実習を行う。

実習では、精神科病院で「12日間90時間以上」の実習を行い、入院治療中の患者と援助関係を構築しながら病状や生活上の課題の理解を深めるとともに、地域移行のための支援方法、精神科病院の精神保健福祉士と地域の関係機関等との連携についてその具体的な内容を理解する。

なお、新型コロナウイルスの影響で病院実習ができない場合は「学内での演習」に変更する。

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験をもとに、実習指導者と連携をとりながら実習を進める。

到達目標

A4406d

- ・精神科病院に入院している患者の状態を理解し、生活上の課題を把握する。
- ・精神科病院における精神保健福祉士の役割について理解する。
- ・精神科病院における精神保健福祉士として必要な資質、能力、技術（援助関係形成力、アセスメント力、支援計画作成力など）を習得する。
- ・病院内他職種の業務を理解するとともに、地域生活支援にかかわる関係機関との連携の具体的な内容を理解する。

成績評価方法

授業理解度、授業参加度、目標達成度の総合評価とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度	○						50
プレゼンテーション							
グループワーク							50
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>本学が指定する精神科病院において、12日間90時間以上の実習を行い、次に掲げる事項をできる限り経験し、指導を受けるものとする。</p> <p>入院患者や病院スタッフとの基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>入院患者との援助関係の形成</p> <p>入院患者の理解とその生活ニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>入院患者の権利擁護及び支援（エンパワメント含む。）とその評価</p> <p>精神科病院内外における多職種連携、チームアプローチの実際</p> <p>精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</p> <p>精神科病院のサービスの管理や職員の就業などに関する規定への理解</p> <p>当該精神科病院が地域社会の中の社会資源であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>精神科病院での実習ができない場合、次のような内容の演習を学内で行う。</p> <p>DVDを用いたシュミレーション学習 入院生活を描いた教材を用いて、精神症状や行動を理解し支援方法について学ぶ。</p> <p>卒業生の実習日誌を用いたシュミレーション学習 実習時に遭遇するさまざまな問題について理解を深める。</p> <p>実習指導者を招聘しての演習 精神保健福祉士として求められる資質・姿勢、専門的な援助技術を理解する。</p> <p>学内教員による演習 看護学科教員及び心理学科教員により他職種の業務を理解するとともに、連携の実際を学ぶ。</p> <p>テキスト等に掲載されている事例を用いた事例研究 地域移行・地域生活支援に向けた精神保健福祉士としての視点を身につける。</p> <p>【予習】実習計画書の作成。事前に配布する資料を読んでおく。（60分）</p> <p>【復習】各回の学習内容をレポート（A4で1枚程度）にまとめる。（60分）</p>	<p>グループワーク</p>
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：精神保健福祉援助実習の手引き（担当教員作成） 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助実習指導・実習』中央法規 新・精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉援助演習』中央法規</p>	<p>精神保健福祉援助演習 ・ ・ 精神保健福祉援助実習指導 ・</p>

課題に対するフィードバック

作成したレポートについては、次回の授業の際に発表してもらい、担当教員が口頭でコメントする。

備考

科目名	心身機能の理解と生活支援			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	溝田 順子、木元 卓也	関連する資格	高等学校教諭（福祉）一種免許状	

授業概要

本授業は、対面で実施する。様々な生活行動（移動、食事、排泄、清潔、身支度等）と関連する人体構造と機能を理解しながら、根拠に基づいた生活支援を具体的に概説する。
 障害の特性に関する基礎的知識や技術を概説する。
 高齢者や障害者の心身の状況に対応できるための症状別ケアの知識と技術、さらにこれらに関連する専門機関や職種とのあり方を演習する。

到達目標

ナンバリング(A3428)

人間の身体構造、機能に関連付けて様々な生活行動を理解し説明できる。
 。 疾患から引き起こされる障害の基礎的知識、生活の特性を理解し支援方法が説明できる。
 健康の維持・増進、予防に関する法制度、障害の状況に対応する連携について系統立てる。

成績評価方法

小レポート、小テスト及び定期試験による総合評価

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 生活支援技術に関連する心身機能と役割と影響(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート(30分)	小レポートもしくは課題
2) 移動に関連する身体構造と機能(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
3) 移動の機能低下と障害が及ぼす影響と支援(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
4) 食事に関連する身体構造と機能(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
5) 食事の機能低下と障害が及ぼす影響と支援(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
6) 排泄に関連する身体構造と機能(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
7) 排泄の機能低下、障害が及ぼす影響と支援(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
8) 入浴・清潔に関連する身体構造と機能、障害が及ぼす影響と支援(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
9) 内部障害(心肺・呼吸機能障害)に関連する身体構造と機能、障害が及ぼす影響(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
10) 内部障害(心肺・呼吸機能障害)に関連する身体構造と機能、障害が及ぼす影響(溝田順子) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小テスト(30分)	小テストもしくは課題
11) 睡眠に関する身体構造と機能、障害に及ぼす影響(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート作成(60分)	小テスト
12) 精神の成長と発達(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート作成(60分)	小レポート
13) 死に対する理解と支援(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート作成(60分)	小レポート
14) 障害の概要-知的障害、発達障害、精神障害-(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート(30分)	小レポート
15) 健康の維持・増進に関する法制度、ICFの概念(木元卓也) 【予習】配付資料を見ておくこと(30分)【復習】小レポート作成(30分)	小レポート
授業外学習	
2)3)4)5)6)7)8)10)11) 小テストでは、授業中に講義した内容をキーワード中心とした範囲で出題する。 9)12)13)14)15)では、授業内容をもとにレポートにまとめ後日提出する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
配付資料 <参考書> 社会福祉士養成講座編集委員会、社会福祉士養成講座第1、人体の構造と機能及び疾病、中央法規	人体の構造と機能及び疾病

課題に対するフィードバック

小テストは毎回解答と説明を行う。レポートは翌週にコメントを記して返却する。

備考

科目名	心理学研究法			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

心理学の研究において、実験法や調査法などいずれの方法を用いる場合でも、得られたデータを適切な方法で統計分析することが不可欠である。本授業では、統計ソフトなどを用いて実際にデータを扱い、心理統計の方法を身につけることを目指す。また、実際に研究倫理を学び、倫理的配慮に基づいた研究を計画する方法を学ぶ。授業は原則、対面で行うが、課題はGoogle Classroomを通して出題、提出する。相談や質問には対面とメールの両方に対応する。

到達目標

ナンバリング(A3429ab)

データ収集や分析の適切な方法がわかる。
統計ソフトを利用し、実際に心理統計を使えるようになる。
分析の結果を解釈し、記述できる。
倫理的配慮に基づいた研究計画が立てられる。

成績評価方法

- ・レポート(40%)
- ・授業態度(15%)
- ・演習他(45%)

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート							20	
授業態度・授業参加度							15	
プレゼンテーション							5	
グループワーク							20	
演習							10	
実習							10	

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	
2) 研究倫理と研究計画について 復習：実際に文献を追加して要約し、論文に慣れる（30分）	ブレインストーミング グループワーク
3) 仮説的検定法の考え方 復習：課題を通して考え方を身につける（30分）	実習グループワーク
4) 相関関係の出し方と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
5) カイ二乗検定の方法と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
6) t検定（対応あり）と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
7) t検定（対応なし）と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
8) 一要因の分散分析（対応あり）と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
9) 一要因の分散分析（対応なし）と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
10) 二要因の分散分析と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
11) 二要因の分散分析と結果の記述 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
12) 文献における統計的記述の理解 復習：課題を通して考え方・やり方を身につける（30分）	実習グループワーク
13) 統計による心理学研究の拡張 復習：研究計画を完成させる（30分）	実習グループワーク
14) プレゼンテーションについて 復習：プレゼンの内容を修正する（30分）	実習グループワーク
15) まとめ 予習：不明の内容をまとめておき、質問できるようにしておく	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】SPSSとAmosによる心理・調査データ解析（第2版） 因子分析・共分散構造分析まで 小塩 真司 著 東京図書</p> <p>研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版] 小塩 真司 著 東京図書</p> <p>【参考書】山田剛史・村井潤一郎（2004）. よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房</p>	<p>「心理学研究法」, 「心理統計学基礎」, 「心理学実験」</p>

課題に対するフィードバック

レポートに関して次週以降にお互いに書いた内容を紹介し合い、全員で理解を深める。

備考

科目名	心理検査法						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	3年	後期			
担当者名	榎本 俊哉		関連する資格	認定心理士			
授業概要 臨床心理にかかわる者にとって、心理的アセスメントは重要な臨床活動の一つである。特に検査道具を用い構造化された心理検査は、客観的・科学的な人間理解のための有効な手段となりうる。また臨床の場において心理検査は、心理的アセスメントのための手段としてだけでなく、支援への動機付け、問題の明確化、支援目標の設定、支援を進めていくうえで必要なラポール形成など、支援的な関わりの手段としても活用できる。 このためには心理的アセスメントの目的及び倫理、観点及び展開について理解したうえで、観察、面接及び心理検査等の心理的アセスメント方法について理解することが必要となる。また、心理的アセスメントの結果について適切な記録及び報告ができることも求められる。 そこでこの授業では、まず心理検査（質問紙法）の作成を試み、心理検査の構成について体験的に理解する。また、代表的な心理検査の実習を行い、これらの心理的アセスメントの結果について記録と報告を作成する実習を行う。 なお、この実習授業を担当する榎本俊哉は公認心理師・臨床心理士であり、心理検査に関する実務経験がある。この経験をもとに、履修生が各自を被験者として実施する各種心理検査について、履修生の希望があれば、自己理解を深める目的で心理検査結果を個別にフィードバックする機会を設けることとする。							
到達目標 ナンバリング (A3430b) * 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。 * 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。 * 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。 * 心理的アセスメントの結果について適切な記録及び報告ができる。			成績評価方法 ・ 出席および実習の実施（30%） ・ 実習レポート（70%）				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							10

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1～2) 心理的アセスメントについて 【復習】質問紙作成についての計画（60分）</p> <p>3～4) 質問紙を作ってみよう 【復習】質問項目の見直し（60分）</p> <p>5～6) 質問紙を作ってみよう 【復習】質問紙作成のための統計的手続きの検討（60分）</p> <p>7～8) 質問紙を作ってみよう 【復習】質問紙の構成の再検討（60分）</p> <p>9～10) 質問紙を作ってみよう 【復習】質問紙作成の振り返り（60分）</p> <p>11～12) 質問紙法 T E G 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>13～14) 質問紙法 Y G 性格検査・M M P I 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>15～16) 描画法 バウムテスト・H T P・風景構成法 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>17～18) 投影法 S C T 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>19～20) 投影法 P - F スタディ 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>21～22) 投影法 ロールシャッハテスト 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>23～24) 知能検査法 W I S C・W A I S 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>25～26) 発達検査法 D A M・H D S - R 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>27～28) 作業検査法 内田クレペリン精神検査 【復習】実施した心理検査結果の検討・復習（60分）</p> <p>29～30) 心理的アセスメントの実際 【復習】これまでの復習（60分）</p>	<p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p> <p>実習・グループワーク</p>
授業外学習	
<p>実習で体験したいいくつかの心理検査について、実習レポート（心理検査結果の記録及び報告）の提出を必須とする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 適宜プリントを配布する。</p> <p>参考書 ・上里一郎 監修（2001） 心理アセスメントハンドブック第2版 西村書店</p>	<p>心理的アセスメント 感情・人格心理学 心理演習 ・ 心理学実験 ・</p>

課題に対するフィードバック

実習レポートにはコメントをつけて返却する。
また、希望者には個別に相談の機会を設け、実施した心理検査のフィードバックについてコメントする。
自分自身を被験者としての心理検査の実施と検討、および希望者への個別のフィードバックによって自己理解を深めることで、自分らしい進路選択・キャリアイメージ形成につながる機会となることが期待される。

備考

- ・実習のため、原則として遅刻・欠席は認められません。
- ・出席および実習レポートの提出がなければ単位認定されません。

科目名	心理学実験			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	3年	前期
担当者名	須藤 竜之介	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

この授業では実際に代表的な心理学実験を実験者・被験者・実験参加者の立場で体験します。この体験の中で、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を活用してのデータ処理や結果の解釈および考察の方法、実験レポートの書き方を学びます。これらにより、卒業研究に取り組むために必要な技能を習得していきます。

到達目標

- ナンバリング(A3431ab)
 * 実験の計画立案ができる。
 * 統計に関する基礎的な知識を活用できる。
 * 実験レポートを適切に作成できる。

成績評価方法

- ・ 実験への参加と実施 (50%)
- ・ 実験レポート (50%)
- * すべての実験レポート提出を必須とする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							10
実習							20

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)(実習)		アクティブラーニング
1) 2) 心理学実験の諸注意 【復習】講義内容の復習(60分) 3) 4) ミュラー・リヤーの錯視 ~ 実験の計画立案 【復習】講義内容の復習(60分) 5) 6) ミュラー・リヤーの錯視 ~ 実験の実施 【復習】講義内容の復習(60分) 7) 8) ミュラー・リヤーの錯視 ~ レポートの書き方 【復習】講義内容の復習(60分) 9) 10) ミュラー・リヤーの錯視 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 11) 12) 大きさの恒常性 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成(180分) 13) 14) 大きさの恒常性 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 15) 16) 鏡像描写 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成(180分) 17) 18) 鏡像描写 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 19) 20) 語の記銘 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成(180分) 21) 22) 語の記銘 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 23) 24) 心理尺度の構成 ~ 実験の実施 【復習】実験レポートの作成(180分) 25) 26) 心理尺度の構成 ~ レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 27) 28) レポート指導 【復習】実験レポートの作成(180分) 29) 30) レポート指導 【復習】実験の振り返り(60分)	実験(グループ・個人) 実習 演習	
授業外学習		
実施したすべての心理学実験についてのレポート提出を義務とします。また、実験レポートについては記載方法や記載内容についての個別指導を受けることとします。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
【テキスト】 木下富雄(代表編集, 1990) 教材心理学, 第4版, ナカニシヤ出版	心理学実験 知覚・認知心理学 心理学統計法 心理学研究法 卒業研究	

課題に対するフィードバック

実験レポートにはコメントをつけて返却する。

備考

- ・ 実習のため、原則として遅刻・欠席は認められません。
- ・ 出席および実験レポートの提出がなければ単位認定されません。

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心理学実験の諸注意 【復習】講義内容の復習（60分）	
2) 2点関 ~実験の計画立案 【復習】講義内容の復習（60分）	演習
3) 2点関 ~実験の実施 【復習】講義内容の復習（60分）	実習
4) 2点関 ~実験方法の見直し 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
5) 2点関 ~レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
6) ストループ効果の検討 ~実験の実施 【復習】実験レポートの作成（180分）	実習
7) ストループ効果の検討 ~レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
8) 性格の認知 ~実験の実施 【復習】実験レポートの作成（180分）	実習
9) 性格の認知 ~レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
10) 奥行知覚の手がかり ~実験の実施 【復習】実験レポートの作成（180分）	実習
11) 奥行知覚の手がかり ~レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
12) 遠近法錯視 ~実験の実施 【復習】実験レポートの作成（180分）	実習
13) 遠近法錯視 ~レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
14) レポート指導 【復習】実験レポートの作成（180分）	演習
15) レポート指導 【復習】実験の振り返り（60分）	演習
授業外学習	
実施したすべての心理学実験についてのレポート提出を義務とします。また、実験レポートについては記載方法や記載内容についての個別指導を受けることとします。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 木下富雄（代表編集，1990） 教材心理学．第4版．ナカニシヤ出版 （＊心理学実験 のテキストと同じ） 他，適宜プリントを配布する。	心理学実験 知覚・認知心理学 心理学統計法 心理学研究法 卒業研究

課題に対するフィードバック

実験レポートにはコメントをつけて返却する。

備考

- ・ 実習のため、原則として遅刻・欠席は認められません。
- ・ 出席および実験レポートの提出がなければ単位認定されません。

2020年度後期においては新型コロナウイルス感染予防のため、履修生を2グループに分けて各回の受講人数を制限し、対面での実験を行う。

科目名	知覚・認知心理学(認知心理学)						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	酒木 保		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 認知心理学とは、記憶、学習、問題解決、思考といった、私たちの認知機能のしくみを研究する分野である。この授業では、認知機能に関わる心の働きを科学的な視点から概観する。							
実務経験 臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 ナンバリング(A3433ab) 認知心理学の基礎的な知識と共に、日常生活における様々な心理学的営みに対して科学的な観点から考察する能力を修得する。 人の認知・思考等の機序及びその障害について理解できる。 認知心理学のさまざまな実験パラダイムについて説明できる。			成績評価方法 ・定期試験(50%) ・レポート(30%) ・コメント等(20%)				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○						50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○					30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション		○		○			20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 認知心理学の歴史と特徴 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
2) 効果の確かさ 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
3) 感覚 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
4) 脳のしくみ 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	1)~4) レポート
5) 認知・思考の機序(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
6) 認知・思考の機序(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
7) 学習の基礎(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
8) 学習の基礎(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	5)~8) レポート
9) 認知と発達(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
10) 認知と発達(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
11) 記憶の仕組み(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
12) 記憶の仕組み(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
13) 認知・思考の障害(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
14) 認知・思考の障害(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	9)~14) レポート
15) 認知と思考及び感情 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	総括発表
授業外学習	
講義後、資料を復習すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 テキストは特に用いず、講義資料に基づいて授業を行う。 【参考書】 参考書は授業中に示す。	「知覚心理学」, 「学習心理学」, 「神経心理学」, 「教育心理学」

課題に対するフィードバック

課題については、コメントをつけて返却する。

備考

科目名	感情・人格心理学(感情心理学)						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	梶本 知子		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 感情の生起には、主観的経験だけでなく生理反応も伴い、感情は心理面や身体面にさまざまな影響を及ぼす。本講義では、感情の機能と発達を知り、感情喚起のメカニズムについて理解を深める。また、感情の測定方法を理解し、感情と「認知」「行動」「健康」「病理」がどのように関連するかについて、知見を得ることを目的とする。 本講義はすべて遠隔授業で行う。							
到達目標 ナンバリング(A3434ab) 感情が喚起するメカニズムを説明できる。 感情の諸理論を説明できる。 感情が認知、行動、健康、病理に及ぼす影響について理解できる。 感情を測定する方法を理解し、各方法のメリットと限界を知る。			成績評価方法 定期試験 55%、授業内ミニレポート(ミニツツペーパー) 15%、宿題(小課題) 30%で評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							55
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 感情とは：感情・情動・気分，感情反応の3成分，感情の古典的理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
2) 感情喚起のメカニズム：生理・認知説，認知的評価理論，相反過程理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
3) 感情の生理的基盤：脳の構造と機能，感情の神経ネットワークモデル，脳の損傷と感情の問題 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（各々90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
4) 感情の機能と進化：感情の種類と機能，進化的視点から見た感情の機能 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
5) 感情と認知：感情が認知に及ぼす影響と理論，思考抑制が対人感情に及ぼす影響 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
6) 感情と発達：感情の発達，感情と愛着，青年期の愛着スタイルと感情 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
7) 感情と言語：感情経験の言語表現，他者の感情理解と心の理論，SNSで発生する感情語ネットワーク 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（各々90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
8) 感情と病理：抑うつとうつ病，ベックの抑うつ認知理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
9) 感情と健康：ポジティブ感情の機能，拡張・形成理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
10) 笑いとユーモア：笑いとユーモア，笑いと健康 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
11) 幸せの心理学：幸福度と幸福感，収入と幸福，文化と幸福，幸福への動機づけ 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
12) 社会不安：不安と恐怖，社会不安に関する研究，社会不安の説明モデルと心理療法 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
13) 対人感情：対人感情の自動性，対人嫌悪，対人感情の適応機能 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
14) 感情制御：感情制御のプロセス，感情制御方略，感情制御の個人差 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
15) 感情の測定：特性/状態としての感情研究，感情の測定 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	ミニッツペーパー （授業内ミニレポート）
授業外学習	
<p>【予習】各回の授業の最後に、次回授業で扱う概念や専門用語、理論名を提示するので、心理学事典等を用いてあらかじめ調べておくこと。</p> <p>【復習】毎回出される小課題（宿題）を行い、その回の授業内容を復習すること。また、疑問に思ったことや興味・関心を惹かれたことについて、心理学事典や参考書、インターネット等を用いて調べる。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>参考文献は授業内で紹介する。</p>	<p>神経心理学、認知心理学、人格心理学、健康心理学、社会心理学、臨床心理学、脳科学、生理学関連の講義</p>

課題に対するフィードバック

- ・ミニツッペーパー（授業内ミニレポート）への解答は、次回の授業までに、Google Classroomで全員（共有コメント）または個別（限定コメント）でアナウンスする。
- ・小課題については、受講生からの提出を確認したのち、Google Classroom の「資料」に解答をアップするので、各自で答え合わせを行い、復習すること。
- ・期末試験については、全体の結果等をGoogle Classroomの共通コメントでフィードバックする。

備考

科目名	障害者・障害児心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	松田 敦子、吉久 浩之	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

障害のある人たちを取り巻く環境は、21世紀を迎えてから大きく変動してきている。そこで、本講義では身体障害、知的障害及び精神障害について概説する。また、最近では発達障害をはじめさまざまな障害のある児童生徒と関わる機会も多くなっているため、発達障害を取り巻く心理社会的課題及び必要な支援について触れる。

到達目標

ナンバリング(A3435ab)
身体障害、知的障害及び精神障害の概要を理解する。
障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について知る。

成績評価方法

定期試験、授業内レポート、授業参加度、グループワークによる評価

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 障害者・障害児心理学とは（松田）遠隔授業 【予習】障がいや発達についての授業を振り返っておく(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
2) 身体障害・知的障害の概要（吉久）遠隔授業 【予習】身体障害・知的障害について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
3) 視覚障害・聴覚障害の概要（松田）遠隔授業 【予習】視覚障害・聴覚障害について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
4) 精神障害の概要（松田）遠隔授業 【予習】精神障害について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
5) 発達障害の概要（松田）遠隔授業 【予習】発達障害について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
6) 肢体不自由及び病弱者の概要（吉久）遠隔授業 【予習】肢体不自由及び病弱者について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
7) 情緒障害児の理解と心理的援助（松田）遠隔授業 【予習】情緒障害児について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
8) 身体障害者を取り巻く心理社会的課題（吉久）遠隔授業 【予習】身体障害者を取り巻く課題について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
9) 知的障害者を取り巻く心理社会的課題（吉久）遠隔授業 【予習】知的障害者を取り巻く課題について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
10) 精神障害者を取り巻く心理社会的課題（松田）遠隔授業 【予習】精神障害者を取り巻く課題について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
11) 発達障害者を取り巻く心理社会的課題（松田）遠隔授業 【予習】発達障害者を取り巻く課題について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
12) 身体障害者への必要な支援（吉久）遠隔授業 【予習】身体障害者の必要としている支援について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
13) 知的障害者への必要な支援（吉久）遠隔授業 【予習】知的障害者の必要としている支援について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
14) 精神障害者への必要な支援（吉久）遠隔授業 【予習】精神障害者の必要としている支援について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
15) 発達障害者への必要な支援（松田）遠隔授業 【予習】発達障害者の必要としている支援について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
授業外学習	
メディアで取り上げられるニュースなど注意して見てみてください。また、障がいのある方々と触れ合う機会を作ってください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じてレジメを配布する。	他の心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

グループワークの際、適宜コメントを行う。

備考

【オフィスアワー】授業の前後に対応します。

科目名	神経・生理心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	酒木 保		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 脳に損傷を受けた場合には多様な心の変化が起こる。これは、心の働きは脳がつかさどっているからである。本授業では、脳のしくみや働き、それらを実験的に調べる研究、脳損傷によって現れるさまざまな心の活動の変化について、主に講義を通じて学び、脳の働きから心の働きを理解することを目指す。							
実務経験 臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 ナンバリング(A3436ab) 神経心理学の考え方や方法について理解し、説明できる。 記憶、感情の生理学的反応の機序について理解し、説明できる。 脳神経の構造及び機能について学習することによって、脳の働きから心の働きを理解することができる。 高次脳機能障害をはじめさまざまな脳損傷の事例について多面的に考え、その援助について討議できる。			成績評価方法 ・ 期末試験(50%) ・ 課題レポート(30%) ・ 授業コメント(20%)				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○						50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○					30
授業態度・授業参加度					○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 神経心理学とは 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
2) 脳のしくみ 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
3) 神経心理学の方法 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	1)~3) レポート
4) 視覚の障害(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
5) 視覚の障害(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	4)~5) レポート
6) 認知と注意の障害 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
7) 言語の障害(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
8) 言語の障害(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	6)及び、7)~8) レポート
9) 半球差について 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
10) 記憶の障害(1) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
11) 記憶の障害(2) 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	10)~11) レポート
12) 情動の障害 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
13) 精神疾患と脳 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
14) 睡眠と脳 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	
15) 神経心理学的リハビリテーション 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。(60分) 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。(30分)	総合レポート
授業外学習	
授業に際し、あらかじめテーマとなる神経・生理心理学上の問題について事前学習しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 特に定めない。 【参考書】 利島保(編)(2006). 脳神経心理学 朝倉書店	「知覚心理学」, 「学習心理学」, 「生涯発達心理学」, 「認知心理学」

課題に対するフィードバック

課題については、コメントをつけて返却する。

備考

科目名	心理演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	3年	前期			
担当者名	高田 晃、榎本 俊哉、小山 典子、 木元 卓也		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 認知行動療法について、実際の生活場面で生じる怒りをテーマにしたトラブルを中心に、その認知の問題、解決方法の問題等、自己の傾向を振り返り理解を深めていく。 自己の傾向を振り返り、グループでのディスカッションを通して、自らが気づいていない自己への理解を深めると同時に、他者の気づきへの支援も行う。 表現療法としての箱庭両方を体験的に理解する。 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチや多職種連携及び地域連携について学ぶ。 これらの体験を通して心理的支援について理解を深めていく。							
実務経験 全員が公認心理師、及び臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 ナンバリング(A3437ab) * 自己の認知の傾向を理解する。 * 自己の問題対処方略について理解する。 * 他者の自己理解を支援する。			成績評価方法 授業態度、授業の出席率、 全授業終了後提示するテーマへのレポート				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○		○				50
授業態度・授業参加度		○	○		○		50
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（榎本）	遠隔授業 課題の提出
2) 認知療法 心の仕組みについて知ろう（榎本） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
3) 認知療法 自動思考を見つけよう（榎本） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
4) 怒りの対処法1 怒りとは何か、怒りの問題点（高田） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
5) 怒りの対処法1 怒りのしずめ方、より良く生きるために（高田） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
6) 怒りの対処法2 怒りの役目、怒れないわけ（高田） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
7) 怒りの対処法2 良い関係を作る怒りの出し方、より良く生きるために（高田） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
8) チームアプローチ 多職種連携とは（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
9) 問題の解決法を知る1 問題の種類を知る、問題解決の種類を知る（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
10) 問題の解決法を知る2 行動を変える、考え方を変える（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
11) 自分の気付いていない問題を知る1 自分のタイプを知る べき探し決法（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
12) 自分の気付いていない問題を知る2 友だち探し解決法 ちか道解決法（木元） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
13) 箱庭療法1（箱庭療法の体験）（小山） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
14) 箱庭療法2（箱庭療法の体験）（小山） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
15) 箱庭療法3（解釈の実際）（小山） 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	遠隔授業 課題の提出
授業外学習	
<p>各授業担当が提示した資料や課題を実施して授業に参加する。 1～3回の授業については、まとめとしてレポートを課す。 4～7回の授業は「心のトレーニング」について、各授業で指示した個所を事前に実施して授業に参加する。 8～12回の授業はグループワークを行うので適宜、レポートを提出してもらう。 13～15回の授業は、体験した内容についてレポートにまとめ提出してもらう。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、資料を配付する。 「心のトレーニング」（小学館集英社プロダクション）を使用。	心理学関連科目全て 心理演習

課題に対するフィードバック

各教員が課題に応じて行う。

備考

オフィスアワー：各教員の指定する曜日に行う

科目名	健康・医療心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	小山 典子		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 健康・医療心理学は人間の病的な側面だけではなく、心身両面での健康の保持・増進、疾患の予防を取り扱う比較的新しい分野の心理学である。 本講義では、健康心理学の基盤となっている心理学理論を概観し、ストレス、運動、リラクゼーション法などが健康にどのように影響を与えるのかを学ぶ。また、医療・保健分野、被災時における心理についてその課題・支援方法にも言及する。							
実務経験 公認心理師、及び臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどの臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。							
到達目標 ナンバリング(A3438ab) 健康心理学を支える基礎理論を理解する。 ストレスとパーソナリティ、コーピング、サポートなどの機能を理解し自分自身の健康を考える機会を持つ。 医療・保健分野における心理学的な側面、支援方法を理解する。 災害時など被害者支援における知識・支援方法を理解する。 リラクゼーション法を体験し、リラックス時の生理的变化を確認する。 フェルトセンスという、すぐには言葉にならない、あいまいな感じを実感する機会を持つ。				成績評価方法 定期試験（レポート提出）、出席日数、授業参加度により評価する。			
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○				50
小テスト、授業内レポート	○	○	○				25
宿題、授業外レポート	○	○	○				25
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（遠隔授業） 健康・医療心理学とは 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
2) 喫煙と健康/たばこの害、禁煙プログラム（遠隔授業） 【予習】健康行動と生活習慣の資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
3) 補完代替医療/民間医療と西洋医学（遠隔授業） 【予習】補完代替医療についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
4) 睡眠と健康/睡眠障害と生体リズム（遠隔授業） 【予習】睡眠についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
5) 心理学的ストレスモデルとは ストレスと心身の疾病との関係（遠隔授業） 【予習】ストレスについての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
6) セルフエフィカシーと健康（遠隔授業） 【予習】セルフエフィカシーについての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
7) 医療現場における心理社会的課題 うつ病と健康（遠隔授業） 【予習】うつ病についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
8) 医療現場における心理社会的支援（遠隔授業） 【予習】心理支援法についての資料を読む（30分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
9) 保健活動が行われている現場における心理社会的課題（遠隔授業） 【予習】地域保健活動についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
10) 保健活動が行われている現場における心理社会的支援（遠隔授業） 【予習】地域保健活動の実際についての資料を読む（30分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
11) リラクゼーション技法1/自律訓練法（遠隔授業） 【予習】リラクゼーションについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について体験実習を行う（60分）	レポート
12) リラクゼーション技法2/温感練習（遠隔授業） 【予習】リラクゼーションについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について体験実習を行う（60分）	レポート
13) フォーカシング技法1/フェルトセンス（遠隔授業） 【予習】フォーカシングについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
14) フォーカシング技法2/フォーカシングの実際（遠隔授業） 【予習】フォーカシングについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について体験実習を行う（60分）	レポート
15) 災害時等に必要心理に関する支援 タッピング・タッチ（遠隔授業） 【予習】タッピングタッチについての資料を読む（30分）【復習】授業内容について体験実習を行う（60分）	レポート
授業外学習	
<p>日常で行っているストレス解消法がこころと身体にどのように影響があるのか、第一次予防として講義で学んだ理論・技法を実践してみる。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書： 健康・医療心理学 宮脇稔他編 医歯薬出版株式会社 健康心理学概論，日本健康心理学学会編，実務教育出版 健康の心理学 心と身体の健康のために，春木豊他共著，サイエンス社</p>	<p>産業・組織心理学 感情・人格心理学</p>

課題に対するフィードバック

レポートにコメントをつけて返却する

備考

科目名	深層心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	高田 晃	関連する資格	認定心理士	

授業概要

無意識を発見し精神分析を開花させたのはフロイトである。精神分析の創始者であるフロイトについて基本的なことを学習する。さらにフロイト以後発展してきた心のメカニズムを理解するための理論である自我心理学、対象関係論、自己心理学、ユング心理学、日本の理論等について紹介していくとともに、担当者の関わってきた症例を提示することで具体的に深層心理を学習する。

到達目標

ナンバリング (A3439b)
基礎であるフロイトの理論について理解する。
それぞれの理論について理解を深める。

成績評価方法

毎回提出する授業外レポート (100%)

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							100
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 意識と無意識 【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
2) エディプス・コンプレックス 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
3) 夢判断 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
4) 心の構造 局所論と構造論：自我、イド、超自我 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
5) フロイトの症例 ドラノ少年ハンス/ねずみ男 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
6) フロイトの症例 シュレーパー/狼男 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
7) 自我心理学 A・フロイト 防衛機制 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
8) 自我心理学 エリクソン 自我同一性/生活周期 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
9) 対象関係論 クライン 分裂機制/投影同一性/抑うつ態勢/妄想分裂態勢 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
10) 対象関係論 ウイニコット 移行対象/錯覚と脱錯覚/ホールディング 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
11) 自己心理学 コフート 自己愛パーソナリティ障害/共感/誇大自己 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
12) 自己心理学 コフート 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
13) ヨング心理学 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
14) 日本の理論 阿蘭世コンプレックス/甘え理論 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
15) 「千と千尋の神隠し」に対する精神分析的な理解 【予習】事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく(30分)【復習】授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する(30分)	遠隔授業 授業外レポート
授業外学習	
事前に配布した資料を熟読しておく、分からない専門語彙を調べておく 授業中説明した重要な専門語彙について正しく理解し暗記する	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度プリントを配布する。 参考文献 『精神分析理論と臨床』北山修、2001年、誠信書房、3,000円 『図説 臨床精神分析学』前田重治、1985年、誠信書房、3,000円	臨床心理学実習

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などの小レポートについて、修正や再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

オフィスアワー：木曜日・金曜日の昼休み時間

科目名	司法・犯罪心理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	4年	前期			
担当者名	小川 昭		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 犯罪の発生メカニズム、犯罪の影響と解決のための手法、加害者の処遇などについて最近の動向をふまえつつ概観し、加害者と被害者の支援のあり方について理解する。 刑事施設における処遇経験をもとに犯罪の加害者に対する理解と改善更生への処遇について、犯罪被害者支援センターでの経験をもちに犯罪被害者への支援について、スクールカウンセラーの相談と民間のDV被害者支援センターとの関りから虐待・家事事件への対応について授業を行う。							
到達目標 ナンバリング(A4407ab) 1. 犯罪に係る基礎的知識が説明できる。 2. 加害者や被害者を支える支援と制度が説明できる。 3. 習得した知識をふまえて、具体的な犯罪事例について、自分なりの支援が実施できる。			成績評価方法 定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 犯罪心理学とは何か(犯罪心理学の対象) 【予習】犯罪心理学について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
2) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 生物学的原因論 【予習】犯罪に至る生理的要因について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
3) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 心理学的原因論 【予習】犯罪に至る心理的要因について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
4) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 社会的要因論 【予習】犯罪に至る社会的要因について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
5) 犯罪理解のための理論と実際 暴力犯罪、拡大自殺 【予習】殺人等の暴力事件について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
6) 犯罪理解のための理論と実際 性犯罪、ストーキング 【予習】性犯罪について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
7) 犯罪理解のための理論 DV、虐待 【予習】DVや虐待などの暴力による支配について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
8) 犯罪理解のための理論と実際 窃盗、強盗、放火 【予習】強盗や放火犯罪について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
9) アクションと犯罪 【予習】薬物事犯や窃盗症などの嗜癖について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
10) 犯罪心理学に関する法律と制度 【予習】成人と少年の法制度について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
11) 犯罪加害者の処遇と支援 【予習】成人の犯罪者の処遇について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
12) 非行の処遇と支援 【予習】少年非行の処遇について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
13) 触法精神障害者の処遇と支援 【予習】医療観察法について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
14) 犯罪被害者の理解と支援(修復的司法) 【予習】犯罪被害者への支援について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト
15) 家事事件への対応 【予習】家事事件や子どもの面会交流について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	小テスト 授業内レポート
授業外学習	
講義の終わりに、その講義のふりかえるため、講義のポイントをテーマとした小テストを行います。 小テストを中心に復習をくり返すことにより、知識の定着を図って下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 レジメを配布する。 【参考書】 わかりやすい犯罪心理学 文化書房博文社 犯罪心理学への招待 サイエンス社 公認心理師の基礎と実践 司法・犯罪心理学 遠見書房	

課題に対するフィードバック

備考

オフィスパワー；

科目名	心理学的支援法						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	3年	前期			
担当者名	榎本 俊哉		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 心理学的な支援方法の主要分野には、心理療法・カウンセリング・対人関係を良好に保つコミュニケーション法が含まれる。これらの支援方法は、クライアントのニーズや目的に合わせて行われるものである。従って、相談業務を遂行するにあたって習得すべき知識と技術が必要となる。本授業では、心理学的支援がどのように構築されてきたか歴史・概念などを概観し、相談ニーズに応じた支援の方法について実践を通じた具体的な講義にしていく予定である。 なお、この実習授業を担当する榎本俊哉は公認心理師・臨床心理士であり、主として教育・医療・産業領域における心理支援の実務経験がある。この経験をもとに、心理支援の実際問題についても講義する。							
到達目標 ナンバリング(A3440ab) 心理学的支援に関わるカウンセリング、心理療法、心の健康教育についての歴史、概念を学び、その意義や適応を理解できる。 地域（保健福祉分野、教育分野など）への心理学的支援について理解できる。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション方法を修得する。 プライバシー、倫理的な配慮について理解できる。 心理学的支援を必要とする人の家族・関係者に対する支援について理解できる。			成績評価方法 定期試験、受講態度（ロールプレイ含む）、総合レポートにより評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○				50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○				20
演習							
実習	○	○	○				20

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション カウンセリング、心理療法の歴史、概念、意義、適応及び限界について【復習】授業内容の振り返り（60分）	
2) 相談援助におけるプライバシー・倫理的な配慮について 【復習】授業内容の振り返り（60分）	
3) 地域（保健福祉分野、教育分野など）への心理学的支援について 【復習】授業内容の振り返り（60分）	
4) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
5) 心理学的支援について 効果的な質問 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
6) 心理学的支援について 感情の反映 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
7) 心理学的支援について 内容の反映 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
8) 心理学的支援について 面接スタイルの形式 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
9) 心理学的支援について 情報の構造化 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
10) 心理学的支援について 感情伝達と即時性 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
11) 心理学的支援について 対決 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
12) 心理学的支援について 自己開示 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
13) 心理学的支援について 情報の行動と構造化 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
14) 心理学的支援について 面接技法の統合 【復習】授業内容の振り返り（60分）	ロールプレイ
15) 心理学的支援を必要とする人の家族・関係者に対する支援について （心の健康教育を含む） 【復習】授業内容の振り返り（60分）	
授業外学習	
講義で学んだ心理学的支援の復習 適宜、レポートを課す。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書：面接のプログラム学習 D.エバンス、M.ハーン、M.ウルマン、A.アイビー著 杉本照子監訳	感情・人格心理学、社会・集団・家族心理学、健康・医療心理学、カウンセリング論

課題に対するフィードバック

レポートにはコメントをつけて返却する。

備考

科目名	社会・集団・家族心理学(家族心理学)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	木元 卓也	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

個人の人格を形成する上で、家族の果たす役割は大きい。家族関係から個人が受ける心理学的な影響を理解した上で、精神疾患・神経症等の不適応に対する家族療法について学ぶ。理論的な面では、システム論を重視する。家族療法では、精神分析的療法・行動理論的療法・認知行動療法的療法・システム論的療法、及び可能ならば、最近、注目されているDV(ドメスティックバイオレンス)被害を受けた母子への影響及び支援について触れたい。

到達目標

ナンバリング(A3441ab)
対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解する。
人の態度及び行動を理解する。
家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について理解する。

成績評価方法

定期試験、受講態度・意欲で評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	○	○					40
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション		○	○	○			20
グループワーク			○		○		20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 社会・集団・家族心理学について 【予習】家族について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	授業内レポート
2) 対人認知について 【予習】対人認知について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
3) 態度と行動 【予習】人間と行動について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
4) ステレオタイプと偏見 【予習】ステレオタイプについて調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
5) 向社会的行動と反社会的行動 【予習】向社会的行動について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
6) 社会的促進と社会的抑制 【予習】社会的促進について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
7) 同調と服従 【予習】同調と服従について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
8) 集団過程 【予習】集団について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
9) 社会的相互作用 【予習】社会的相互作用について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
10) 対人関係の形成と発展 【予習】対人関係について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
11) 家族の人間関係 【予習】家族の発達について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
12) ソーシャルサポート 【予習】ソーシャルサポートについて調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
13) 文化と社会心理 【予習】海外の文化について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
14) 集合行動とマスコミュニケーション 【予習】集合行動について調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
15) まとめ 【予習】ドメスティック・バイオレンスについて調べる（30分） 【復習】配布したプリントを読み返す（30分）	グループワーク
授業外学習	
なし。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要によりレジュメを配布する。	他の心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

グループワークでの気付きやレポートを適宜、授業内でフィードバックする。

備考

オフィスアワー；毎週木曜日2限目(事前に連絡して下さい)

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 産業・組織心理学について	
2) ストレスとメンタルヘルス セルフケア 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
3) ストレスとメンタルヘルス ラインケア1 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
4) ストレスとメンタルヘルス ラインケア2 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
5) ハラスメントについて 【復習】講義内で配布した資料についての復習（60分）	演習
6) アサーションについて 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
7) リラクゼーションについて 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
8) 職場環境の改善について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
9) 長期休業後の復職支援について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
10) 労働者の人権について 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
11) 産業・組織心理学の歴史 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
12) キャリア形成とワークライフバランス 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
13) 作業能率とヒューマンエラー 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
14) 商品イメージ・マーケティングと宣伝や広告・消費者心理 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
15) 組織における人の行動とリーダーシップ・仕事への動機付け 【予習】テーマについての予習・プレゼンテーション資料の作成（120分）	演習 グループワーク
授業外学習	
<p>受講生は各自が興味あるテーマに沿って文献をまとめ、発表する。発表はパワーポイントなどを用いて他の受講生に分かりやすくすること。プレゼンテーションも評価の対象となる。なお、講義での発表および発表に必要なレポートの提出は必須とする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【参考書】 適宜プリントを配付する。</p>	<p>社会・集団・家族心理学 感情・人格心理学 健康・医療心理学</p>

課題に対するフィードバック

履修生のプレゼンテーションについては授業内でコメントする。
プレゼンテーション資料についてはA～Dの4段階で評価し、心理学的視点からコメントする。
なお、D評価となったプレゼンテーション資料については再提出を課す。

備考

科目名	関係行政論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	西村 秀明	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

心理臨床に携わる専門家として周知しておかなければならない各種制度について講義する。具体的には、1) 保健医療分野に関する各制度、2) 福祉分野に関する各制度、3) 教育分野に関する各制度、4) 司法・犯罪分野に関する各制度、5) 産業・労働分野に関する各制度、などである。また、それぞれの制度にかかわる事例を通し、グループワークにおいて検討していく。

授業はGoogle Classroomを活用し、遠隔で実施する。

到達目標

ナンバリング(A3442a)

心理臨床に従事する専門家として、クライアント支援に際して必要不可欠である基本的な各領域における法的制度の修得。

成績評価方法

各制度について、その習得度を定期試験において評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 保健医療分野に係る各制度(1).....(予習)「精神保健福祉法」を読んでおくこと(90分)。(復習)「精神保健福祉法」についての成り立ちについて理解し、精神障害者の置かれている状況を認識する(30分)。	
2) 保健医療分野に係る各制度(2).....(予習)再度「精神保健福祉法」の条項を読んでおくこと(60分)。(復習)精神障害者の医療と保護について各条項の意味するところを理解する(30分)。	
3) 保健医療分野に係る各制度(3).....(予習)医療と保護に係る精神障害者の権利について学習しておくこと(60分)。(復習)精神障害者の権利保障を充分理解する(30分)。	
4) 保健医療分野に係る各制度(4).....(予習)「医療観察法」、「障害者総合支援法」を読んでおくこと(60分)。(復習)「医療観察法」、「障害者総合支援法」に照らして精神障害者の処遇、地域支援について習得する(60分)。	
5) 保健医療分野に係る各制度(5).....(予習)精神障害者に係る各法律について周知しておく(90分)。(復習)精神障害者の支援について法律に基づいて計画を策定できるようにする(60分)。	グループワーク
6) 福祉分野に係る各制度(1).....(予習)「児童福祉法」を読んでおくこと(90分)。(復習)児童の福祉についてその全体を理解する(30分)。	
7) 福祉分野に係る各制度(2).....(予習)「児童虐待の防止等に関する法律」、「子どもの権利条約」について学習しておくこと(90分)。(復習)子育て支援含め、子どもの生育を保障する社会の役割を認識する(30分)。	
8) 福祉分野に係る各制度(3).....(予習)子どもの育成に係る各事業について調べておく(90分)。(復習)事例を通して学んだ援助について、再度法律等と照らし合わせて制度の意味するところを認識する(60分)。	グループワーク
9) 教育分野に係る各制度(1).....(予習)「学校教育法」、「いじめ防止対策推進法」を読んでおく(60分)。(復習)支援者として「学校教育」、「いじめ対応」に係る役割を認識する(60分)。	
10) 教育分野に係る各制度(2).....(予習)「教育の確保法」及びこれに付随する文科省通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」を読む(120分)。(復習)今後の不登校支援について視野を広げて理解する(30分)。	
11) 教育分野に係る各制度(3).....(予習)これまで学習した法律について再学習しておくこと(90分)。(復習)事例検討を踏まえ、学校や地域で生起する子どもたちの問題について、法律を念頭に支援の構築ができるようにする(60分)。	グループワーク
12) 司法・犯罪分野に係る各制度(1).....(予習)刑法犯罪・少年犯罪における心理的処遇について学習する(90分)。(復習)犯罪への一次予防、二次予防(更生プログラム)、三次予防(更生支援)について考える(60分)。	
13) 司法・犯罪分野に係る各制度(2).....(予習)「犯罪被害者等基本法」、「犯罪被害給付制度」を学習しておく(60分)。(復習)修復的司法を通し、加害者・被害者の心理的状態の推移(和解)を学ぶ(60分)。	グループワーク
14) 産業・労働分野に係る各制度(1).....(予習)「労働安全衛生法」について学習しておく(90分)。(復習)「労働安全衛生法」がどのように機能しているが理解する(30分)。	
15) 産業・労働分野に係る各制度(2).....(予習)過労死、過労自殺について調べておく(90分)。(復習)労働者支援に対し、「労働安全衛生法」はもとより、今後どのような施策が考えられるが検討する(90分)。	グループワーク
授業外学習	
それぞれの領域における法律について、事前に学習しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
各法律や制度については担当教員より指示するので用意しておくこと。また事例については担当教員が配布、または口頭で説明する。	心理実習、心理演習 ・ 、産業・組織心理学、社会・集団・家族心理学、教育・学校心理学、心理学的支援法

課題に対するフィードバック

事例検討においては、その都度コメントを提示して理解を深める。また、課題レポートに関してはこれを評価するとともに、的確な助言等を書き込んで返却する。

備考

科目名	行動療法			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

行動療法の基礎を学び、心理臨床場面でその補法をいかに使用するかを考え、実際に使えるようになる基礎の考え方、方法を学ぶ。行動療法派のみで無く、他の学派の心理臨床を中心とする立場の臨床心理家も「方法としての行動療法」は十分使用可能であることを理解でき、実践に応用できることを授業の目標にする。

到達目標

ナンバリング(A3443)

行動療法の基礎、特に方法についての基礎的理論と方法について理解し、心理臨床実践において応用することが可能になること

成績評価方法

- 1 出席状況
- 2 簡単な試験
- 3 授業中の熱心さ（発言、質問等）

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 行動療法の概要 1	
2) 行動療法の概要 2	
3) 行動療法の事例 1	
4) 行動療法の技法 1	
5) 行動療法の技法 2	
6) 行動療法の技法 3	
7) 行動療法のすすめ方 1	
8) 行動療法のすすめ方 2	
9) 行動療法のすすめ方 3	
10) 行動療法のすすめ方 4	
11) 行動療法の事例 2	
12) 行動療法の事例 3	
13) 認知行動療法 1	
14) 認知行動療法 2	
15) 総括	
授業外学習	
教科書を事前に読んで授業にのぞんでください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書 山上敏子著 「方法としての行動療法」 金剛出版 ¥2,500+税	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	心理的アセスメント			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	酒木 保	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

心理検査は、投影法、質問紙法、精神作業検査法からなる。これらの主だった検査を受講者自身が実施し、それについての所見を書き提出する。

検査を知るには、自らが検査を受検しその検査を通して自分自身の所見を記載する。それにより、検査への理解がより深まる。

。実際体験した検査内容を整理し、検査それ自体の特性を理解する。また、クライアントへのフィードバックについてもペアを組んで実体験的に行う。

心理検査の結果の適切な記録と報告は、アセスメントには欠くことのできないものである。それらについては各検査を体験し報告書として提出されたものをすべてチェックしフィードバックする。

実務経験

臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

ナンバリング(A3444ab)

それぞれの検査を用いてバッテリーを組み、適正な所見が書けるようになることを目的とする。

成績評価方法

全ての検査を受検して、それぞれの検査を通して自分自身の所見を書く。いずれも重要な検査を実施する故、欠席は許されない。やむなく欠席する事態が生じた場合には、個別に実施する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	○						10
小テスト、授業内レポート				○			10
宿題、授業外レポート				○			10
授業態度・授業参加度					○		20
プレゼンテーション		○					20
グループワーク				○			10
演習			○				10
実習			○				10

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) C M I と S D S を体験する 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それらを統合してレポートを書く
2) M A S と S T A I を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それらを統合してレポートを書く
3) M M P I を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	M M P I と S D S とをまとめてレポートを書く
4) Y G を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	Y G と M P I とをまとめてレポートを書く
5) T E G と P F スタディを体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	T E G と Y G とをまとめてレポートを書く
6) S C T を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	S C T と P F とをまとめてレポートを書く
7) 内田クレペリンを体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	内田クレペリンと M P I とをまとめてレポートを書く
8) ベンダーゲシュタルトとベントン記銘検査を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	ベンダーゲシュタルトと弁トンをまとめてレポートを書く
9) バウム2枚法を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	バウム2枚法と Y G をまとめてレポートを書く
10) 風景構成法を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	風景構成法と M M P I をまとめてレポートを書く
11) グッドイナフと M M P I を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	グッドイナフと M M P I をまとめてレポートを書く
12) K - A B C 2、W I P P S I を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	実際のデータをもとに内容を報告する
13) W I S C と W I S C - を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それぞれの検査の特性を報告する
14) W I S C と 田中ビネーを体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それぞれの検査の特性を報告する
15) 新K式と D N - C A S を体験する 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（60分） 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく。（30分）	それぞれの検査の特性を報告する
授業外学習	
個人検査の場合はそれぞれペアになってお互いに取りあう。また、査定についても検証しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度資料を配布する。	

課題に対するフィードバック

課題についてはコメントして返却する。

備考

科目名	心理実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	4年	通年(前期)			
担当者名	小山 典子、西村 秀明、榎本 俊哉、木元 卓也		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 公認心理師法により定められている、次の3項目を中心に修得する。 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。 2) 多職種連携及び地域連携について。 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。 また、各自個別的な実習課題を設定し、心理臨床における機能や役割についてより深く学修する。 次に、本学と実習契約をしている各実習機関(施設)への配属実習により、心理業務の実際について学修する。実習は3領域以上の機関で実施する。また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関(施設)を訪問し、実習指導職員とともにスーパービジョンを実施する。 全実習期間及び時間は、10日間、80時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。 医療保健分野 4日間(32時間) 福祉分野 4日間(32時間) 教育分野 2日間(16時間) 司法・犯罪分野を選択する者は、美祿社会復帰促進センターにおいて2日間(16時間)の見学実習とする。 の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。 実習に際しては、毎日「実習記録」を記載すること。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受けるものとする。 実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。							
到達目標 ナンバリング(A4409ab) 学修の課題設定した、1)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについての理解、2)多職種連携及び地域連携についての実際、及び 3)公認心理師としての職業倫理及び法的義務の修得。心理臨床に取り組む姿勢の学修。			成績評価方法 実習評価、研究レポート等で総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○				10
授業態度・授業参加度		○	○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		20
グループワーク			○	○	○		10
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1. 公認心理師法により定められている、実習において学修すべき次の3項目について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。 2) 多職種連携及び地域連携について。 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。 <p>2. 各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。</p> <p>3. 次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の中で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。</p> <p>4. 実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。</p> <p>5. また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。</p> <p>6. 実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。</p>	
授業外学習	
臨床心理学はもちろん、精神医学、精神保健福祉、児童福祉等関連図書で学習を積んでおくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河合隼雄（2003）．臨床心理学ノート 金剛出版 ・馬場禮子 編（2003）．臨床心理学概説 放送大学教育振興会 	心理学、精神医学等すべての科目

課題に対するフィードバック

実習記録についての評価を実習指導者よりフィードバックを行う。
課題にコメントをつけて返す。

備考

科目名	心理実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	2	4年	通年(後期)			
担当者名	小山 典子、西村 秀明、榎本 俊哉、木元 卓也		関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士			
授業概要 公認心理師法により定められている、次の3項目を中心に修得する。 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。 2) 多職種連携及び地域連携について。 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。 また、各自個別的な実習課題を設定し、心理臨床における機能や役割についてより深く学修する。 次に、本学と実習契約をしている各実習機関(施設)への配属実習により、心理業務の実際について学修する。実習は3領域以上の機関で実施する。また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関(施設)を訪問し、実習指導職員とともにスーパービジョンを実施する。 全実習期間及び時間は、10日間、80時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。 医療保健分野 4日間(32時間) 福祉分野 4日間(32時間) 教育分野 2日間(16時間) 司法・犯罪分野を選択する者は、美祿社会復帰促進センターにおいて2日間(16時間)の見学実習とする。 の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。 実習に際しては、毎日「実習記録」を記載すること。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受けるものとする。 実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。							
到達目標 ナンバリング(A4409ab) 学修の課題設定した、1)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについての理解、2)多職種連携及び地域連携についての実際、及び 3)公認心理師としての職業倫理及び法的義務の修得。心理臨床に取り組む姿勢の学修。			成績評価方法 実習評価、研究レポート等で総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート		○	○				10
授業態度・授業参加度		○	○		○		10
プレゼンテーション		○	○	○	○		20
グループワーク			○	○	○		10
演習							
実習		○	○	○	○		50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1. 公認心理師法により定められている、実習において学修すべき次の3項目について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。 2) 多職種連携及び地域連携について。 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。 <p>2. 各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。</p> <p>3. 次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の中で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。</p> <p>4. 実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。</p> <p>5. また、実習中は週1回以上、実習担当教員が実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。</p> <p>6. 実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。</p>	
授業外学習	
臨床心理学はもちろん、精神医学、精神保健福祉、児童福祉等関連図書で学習を積んでおくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河合隼雄（2003）．臨床心理学ノート 金剛出版 ・馬場禮子 編（2003）．臨床心理学概説 放送大学教育振興会 	心理学、精神医学等すべての科目

課題に対するフィードバック

実習記録についての評価を実習指導者よりフィードバックを行う。
課題にコメントをつけて返す。

備考

科目名	総合演習						
授業形態	履修形態	単位数		年次	開講期		
演習	必修	1		3年	前期		
担当者名	蔵本 満敦、三島 瑞穂、木元 卓也、	小山 典子、三輪 直之、内海 俊哉、	榎本 知子、榎本 俊祐	関連する資格			
授業概要 モデル内で選んだ教員の研究にふれることにより、専門性を高める。卒業研究の準備として取り組む。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取り組み、専門性を深めていく。							
到達目標 A3301 報告・発表、議論等の能力を養う。 主題に関する専門性を高める。 卒業研究に向けてレポートの質を高める。				成績評価方法 出席率、提出レポートによって総合的に評価する。			
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
2) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
3) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
4) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
5) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
6) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
7) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
8) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
9) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
10) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
11) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
12) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
13) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
14) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
15) 各教員の計画によりすすめられる	レポートなど
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
担当教員ごとに指示する。	選択する担当教員の掲げる主題によって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う

備考

科目名	総合演習						
授業形態	履修形態	単位数		年次	開講期		
演習	必修	1		3年	後期		
担当者名	蔵本 満敦、三島 瑞穂、木元 卓也、	小山 典子、三輪 直之、内海 俊哉、	榎本 知子、榎本 俊祐	関連する資格			
授業概要 モデル内で選んだ教員の研究にふれることにより、専門性を高める。卒業研究の準備として取り組む。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取り組み、専門性を深めていく。なお、卒論研究は、総合演習 を選択した教員にこだわる必要は無い。							
到達目標 A3302 報告・発表、議論の能力を高める。 主題に関する専門性を高める。 卒業研究へのレディネスの形成。				成績評価方法 出席率および提出レポートより総合的に評価する。			
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
2) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
3) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
4) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
5) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
6) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
7) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
8) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
9) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
10) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
11) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
12) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
13) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
14) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
15) 各教員の計画によりすすめられる 卒業研究報告会参加	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
担当教員ごとに指示する。	選択する担当教員の掲げる主題によって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う

備考

科目名	キャリア支援						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	3年	前期			
担当者名	角光 通子		関連する資格				
授業概要 将来の進路を見据え、不足している能力や知識を認識し、主体的にその能力や知識の習得に取り組む。グループワークを通して、自己理解を深めると同時に、スピーチ、プレゼンテーションなどを通して、社会人基礎力を育成する。							
到達目標 A3501 ○自己の価値観を確立する ○自己を客観的に分析できる能力の習得 ○仕事を取り巻く社会環境について、理解することができる			成績評価方法 授業への積極的な参加、授業外レポートなどによる総合評価				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							60
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							5
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) オリエンテーション 【予習】 【復習】小レポートを作成する（30分）		小レポート
2) PROGの実施 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート
3) 就職活動の全体像を知ろう ～就職活動の現状の理解～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
4) ワールドカフェ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
5) コミュニケーション（1分間スピーチを学ぼう） 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
6) コミュニケーション（相手に伝わる文章の書き方） 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
7) PROG解説 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
8) PROG解説 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
9) 労働市場を知る ～各業界、地域等の労働市場について～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
10) 業界研究会 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
11) 応募書類を作成しよう 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
12) マナー講座 ～マナー全般～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
13) マナー講座 ～就職活動や実習での電話対応～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
14) マナー講座 ～就職活動等での身だしなみ～ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
15) 総括 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート
授業外学習		
毎授業後、作成するレポートを通して、自己の思いに向き合い、自身の課題を明確にする。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
適時資料を配布する。 キャリア支援センターにある資料・書籍等を参考にして、自分に合った教材を見つける。		インターンシップ キャリア支援

課題に対するフィードバック

小レポートは、翌週コメントを付けて返却する。

備考

科目名	キャリア支援						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	3年	後期			
担当者名	角光 通子		関連する資格				
授業概要 キャリア支援 ~ の総仕上げとして、自身の目指す進路に進めるように努力する。 本授業は、対面授業形式で実施いたします。 なお、授業課題及び資料提供については、GoogleClass Roomを適宜利用します。							
到達目標 A3502 ○希望の進路を決定し、主体的に取り組むことができる ○一般常識やマナーなど社会で必要とされる力を身に付けることができる 具体的な就職活動、進路選択活動の行動を起こすことができる			成績評価方法 授業への積極的な参加、授業外レポートなどによる総合評価				
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							60
授業態度・授業参加度							30
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							5
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	オリエンテーション ガイダンス 【予習】 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
2)	就職・進学における活動の進め方 ~就職・進学における今後の活動概要~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
3)	応募書類を作成しよう ~履歴書等の応募方法の作成~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
4)	応募書類を作成しよう ~履歴書等の応募方法の作成~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
5)	働く者の権利と保障の理解 ~労働者としての権利と保障を学ぶ~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
6)	働く者の権利と保障の理解 ~労働者としての権利と保障を学ぶ~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
7)	お金の話 ~税金・社会保険の理解~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
8)	集団面接体験講座 ~集団面接の概要を知り、体験~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
9)	集団面接体験講座 ~集団面接の概要を知り、体験~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
10)	グループディスカッション体験講座 ~概要を知り、体験~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
11)	グループディスカッション体験講座 ~概要を知り、体験~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
12)	Webエントリー講座 ~就職・進学における活動に対してWebの活用方法~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート グループワーク
13)	社会人としての自覚 ~各分野で活躍されている社会人の方の講演~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
14)	先輩からのメッセージ ~各分野で活躍されている本学の卒業生の講演~ 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
15)	総括 【予習】事前配布資料を読む(30分) 【復習】小レポートを作成する（60分）	小レポート
授業外学習		
毎授業後、作成するレポートを通して、自己の思いに向き合い、自身の課題を明確にする。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
適時資料を配布する。 キャリア支援センターにある資料・書籍等を参考にして、自分に合った教材を見つける。		インターンシップ キャリア支援、

課題に対するフィードバック

小レポートは、翌週コメントを付けて返却する。

備考

科目名	卒業研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	4年	通年(前期)
担当者名	内海 俊祐、蔵本 満敦、高田 晃、 小山 典子、榎本 俊哉、三島 瑞穂、 三輪 直之、白石 義孝	関連する資格		

授業概要

大学4年間の総まとめとして各モデル別に学んだ専門分野の中から、自分が本当にやりたいものは何かを見つけ、テーマを決めて取り組む。2年～3年次で習得した「総合演習」の経験を生かすことが望ましい。担当教員のもとで資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。

到達目標

A4301b
自分の納得のいく論文を作成する。

成績評価方法

出席状況と研究内容との総合評価。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							70
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
2) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
3) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
4) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
5) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
6) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
7) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
8) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
9) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
10) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
11) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
12) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
13) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
14) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
15) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。 参考書は、担当教員が個別的に教示する。	取り上げるテーマによって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う

備考

科目名	卒業研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	4	4年	通年(後期)
担当者名	内海 俊祐、蔵本 満敦、高田 晃、 小山 典子、榎本 俊哉、三島 瑞穂、 三輪 直之、白石 義孝	関連する資格		

授業概要

大学4年間の総まとめとして各モデル別に学んだ専門分野の中から、自分が本当にやりたいものは何かを見つけ、テーマを決めて取り組む。2年～3年次で習得した「総合演習」の経験を生かすことが望ましい。担当教員のもとで資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。

到達目標

A4301b
自分の納得のいく論文を作成する。

成績評価方法

出席状況と研究内容との総合評価。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							70
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
2) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
3) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
4) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
5) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
6) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
7) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
8) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
9) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
10) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
11) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
12) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
13) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
14) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
15) 各教員の計画によりすすめられる	卒業研究論文作成 卒業研究報告会準備
授業外学習	
教員ごとに課題提示	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。 参考書は、担当教員が個別的に教示する。	取り上げるテーマによって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う

備考

科目名	教育実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	4年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

事前指導では、教育実習の意義・目標についての概要を把握し、合わせて、実習に臨む姿勢・態度・心構え、実習生を迎える生徒の態度、実習生として生徒に対する態度、学習指導上の留意点について学ぶ。また、実際の高等学校の教育現場を知り、授業の方法を考える。事後指導では、教育実習を振り返り、指導教諭の指導・助言を踏まえて、自己を見つめ、教育実践を深める。

到達目標

C4401

- ・教育実習の意義と目標を理解する。
- ・教育実習の全体像について、理解する。
- ・生徒から見た教師像について考える。

成績評価方法

模擬授業、学習指導案、授業内、授業外レポートの内容で評価する(理由なく欠席した場合は単位を認めない)。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							40
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1) 教育実習指導とは：教育実習指導の目標、授業計画などについて講義、教育実習の意義と目標</p> <p>2) 教育実習の展開：事前研究（実習前の心構え、大学における事前指導、実習校における事前指導）、教育実習の心得、教育実習の形態、事後研究（研究の継続、自己評価と反省）</p> <p>3) 実習指導 実習の準備 1：教材研究、授業の構成</p> <p>4) 学習指導の実際と学習指導案の作成 実習の準備 2：学習指導の過程、指導形態</p> <p>5) 授業研究 実習の準備 3：授業研究の実際、教育実習の記録</p> <p>6) 道徳・特別活動・総合的な学習 実習の準備 4：道徳の目標、内容、指導計画の立案、指導法、総合的な学習の時間における目標、指導、情報収集、特別活動</p> <p>7) 生活指導と学級経営 実習の準備 5：生活指導の性格、学級づくり、問題行動の指導、学級経営案、学級経営上の留意点、学級事務、学校保健、学校安全</p> <p>8) 教師としての勤務 実習の準備 6：勤務時間の設定、研究の活動など</p> <p>9) 模擬授業 1：模擬授業の実践(1)</p> <p>10) 模擬授業 2：模擬授業の実践(2)</p> <p>11) 模擬授業 3：模擬授業の実践(3)</p> <p>12) 実習直前指導 実習の準備 7：実習日誌の書き方など</p> <p>13) 教育実習の振り返り：自己評価と実習の意義</p> <p>14) 教育実習のまとめ：教育実習の評価</p> <p>15) 教育実習指導のまとめ：総括</p> <p>各回の予習として、テキストの指定箇所を読んでおく（60分） 各回の復習として、指定された課題のレポートを作成する（60分）</p>	<p>授業内レポート</p>
授業外学習	
<p>授業計画に示されている内容について、教育実習関連の参考書を読んで予習をしてください。授業計画の進行に応じて、学習指導案を作成してください。模擬授業の展開を練習しておいてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>参考書 「教育実習 教職実践演習 フィールドワーク」協同出版 「早稲田大学 教育実習マニュアル」東信堂</p>	<p>社会福祉士国家試験受験資格に関する科目、教職に関する科目</p>

課題に対するフィードバック

備考

【履修条件】

- ・3年次までの福祉分野の専門科目および教職科目をすべて履修済みであること。
- ・成績優良であること(GPA2.5以上)

科目名	教育実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	4年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	高等学校教諭(福祉)一種免許状	

授業概要

教育実習では、大学で社会福祉の科目や、教職関連科目を履修していくうえで理解した知識、技能を、教育現場で実践的に学習することを目的とする。具体的には、学校経営、学校の組織、児童生徒の理解、教育課程、学習指導、道徳・特別活動・総合学習、生徒指導と学級経営などを実際の学校教育のなかで、指導教諭の指導を受けながら、生徒と教育的関係を通して理解する。特に学習指導における教材研究と学習指導案の作成、そして、これに基づく授業展開について学習する。

到達目標

C4402

- ・教育課程や学習指導について研究を深め、実践する。
- ・教材研究を習得し、学習指導案の作成ができる。
- ・教材研究と学習指導案に基づいた、授業展開ができる。
- ・特別活動や生徒指導について理解する。
- ・学校・学級運営に参画し、教師の勤務を理解する。
- ・自らの教師としての適性について検討する。
- ・生徒の発達、学校生活への理解を深める。
- ・生徒とのコミュニケーションを図る。

成績評価方法

実習巡回指導、実習評価表、実習ノートの内容などを勘案して、総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							90

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～15) 6月から9月に、各教育機関で、教育実習を行なう。</p> <p>実習中の予習・復習については、実習先の指導教員の指示に従うこと</p>	<p>実習中のすべての活動</p>
授業外学習	
<p>実習事前の学習として、学習指導案を作成し、教材研究などに取り組んでください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>参考書 「教育実習 教職実践演習 フィールドワーク」協同出版 「早稲田大学 教育実習マニュアル」東信堂</p>	<p>社会福祉士国家試験受験資格に関する科目、教職に関する科目</p>

課題に対するフィードバック

備考

実習先では、学生という立場ではなく、教育実習生であるという自覚を常に持つこと。
不明な点があれば、一人で勝手に判断せず、必ず指導担当教員の判断を求めること。
特別活動や学級の行事、清掃活動等に参加し、実習生として積極的に生徒に語りかけることを心がける。また自分の進路選択の経験についても機会があれば述べること。

科目名	教職実践演習（高）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	2	4年	後期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	高等学校教諭（福祉）一種免許状	

授業概要

本科目では、社会福祉関連の「教科に関する科目」や「教職に関する科目」で学習した専門的知識と、教育実習指導や教育実習で学んだ教科指導力や生徒指導力の実践的知識の統合を図り、教員としての実践的指導力を伴った、教員としての資質の到達点を総合的に判断し、指導する。主な授業形態は、講義、今日的な教育課題に関する役割演技（ロールプレイング）、事例研究、グループ討論等の演習や現地調査（フィールドワーク）などの方法を適宜適用する。

- 【講義・グループワーク】看護学科養護教諭一種課程と合同で実施する。（3回程度）
- 【フィールドワーク】山口大学主催のYFLプログラムなどに参加する。（3日間×2回程度）
- 【事例研究】児童養護施設や特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う。（必要に応じ追加する）

到達目標

C4403

本科目は、学生が教養教育科目、教職関連科目、社会福祉に関する教科関連科目を学んだことによって、使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力など教員としての資質能力が、有機的に統合され、形成されたかについて確認する。

成績評価方法

すべての演習の授業が終わった後の課題レポート、各授業ごとの評価レポート、授業の参加状況と態度などで総合的に評価をする。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（合同） ・授業の目的・すすめ方・履修カルテの確認 ・自己の振り返り評価～用紙への記入	
2) 教職課程をふり返る（合同） 本学での学習や教育実習を振り返り、各人の自己評価一覧を開示し、他者との比較も合わせて、自他の課題を明らかにする。	授業内レポート
3) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
4) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
5) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
6) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
7) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	フィールドワーク
8) フィールドワーク ・山口県内で実施される他大学の学生との合同プログラムに参加する（8時間）	参加レポート
9) ケースマネジメント（合同） ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	授業内レポート
10) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	フィールドワーク
11) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	フィールドワーク
12) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	フィールドワーク
13) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	フィールドワーク
14) 事例研究 ・宇部市内の児童養護施設、特別支援学校、小学校などで参加型学習を行う（8時間）	参加レポート
15) まとめ・振り返り ・この授業を通して学んだことを整理し、それをもとに、今後の教育職あるいは社会福祉援助職としての自身のキャリアを構想する。	期末レポート
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書 「教育実習 教職実践演習 フィールドワーク」協同出版 「早稲田大学 教育実習マニュアル」東信堂	社会福祉関係の科目、教職関連科目

課題に対するフィードバック

備考

今年度は開講しない

【履修条件】

- ・教育実習および福祉分野の専門科目および教職科目をすべて履修済みであること。
- ・成績優良であること(GPA2.5以上)

フィールドワークは夏休み中に実施される場合もある。